SONY®

ノートブック
コンピューター

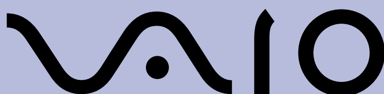
オンラインマニュアル

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

このオンラインマニュアルには、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**このオンラインマニュアルをよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。





S200

PCG-505V

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6〜12ページの注意事項をよくお読みください。
製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご連絡ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**



➡

1. **電源を切る**
2. **電源コードや接続ケーブルを抜くまたはバッテリーを取りはずす**
3. **VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に連絡する**

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号


注意


火災


感電

行為を禁止する記号


禁止


分解禁止


水ぬれ禁止


ぬれ手禁止

行為を指示する記号


強制


プラグをコンセントから抜く

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、それぞれ社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

（社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

目次

⚠危険・⚠警告・⚠注意 6
こんなことができます 13
マニュアルの使いかた 16
オンラインマニュアルの使いかた 17
各部のなまえ 19

操作編

基本的な使いかた

電源を入れる 24
電源を切るには 26
再起動するには 27
ACアダプターを持ち運ぶときは 27
タッチパッドを使う 28
キーボードを使う 30
文字を入力する 32
日本語入力のまえに 32
入力のしかたを選ぶ 34
文字を入力する 35
フロッピーディスクを使う 40
フロッピーディスクドライブを取り付ける 40
フロッピーディスクを入れる 42
データを書き込み禁止にする 43
使用できるフロッピーディスク 43
バッテリーで使う 45
バッテリーパックを取り付ける 46
バッテリーを充電する 47

VAIOを使いこなす

インターネットを楽しむ 48
インターネットに接続する 48
外出先でインターネットにアクセスする 50
情報をメモして活用する 53
本機のメモ機能について 53
付属のペンについて 54
手書きの絵メモをつくる（Smart Pad for 505）..... 55
手書き文字で記録をとる（Smart Write for 505）... 56
手書き文字を通常のテキストに変換する（手書き文字認識パッド）............................. 58
音声でメモをとる（Smart Label）............................. 60
作成したメモをデスクトップに貼りつける 61
好みのソフトウェアを自動的に起動する 62
ワンタッチで好みのソフトウェアを起動する 62
内蔵タイマーで好みのソフトウェアを起動する 64
ワンタッチで電子メールを確認する 66
PPK Setupソフトウェアの制限事項について 68
他の機器とデータをやりとりする 69
Smart Connectを使ってデータをやりとりする 69
赤外線（IrDA）でデータをやりとりする 70
ネットワーク（LAN）につないでデータをやりとりする .. 74
シリアルケーブルを使ってデータをやりとりする 75

次のページにつづく

音楽CD／ビデオCDを再生する 76
Digital Media Parkで音楽CD／ビデオCDを再生する 76
いろいろなソフトウェアを使う .. 77

拡張編

周辺機器を接続する

内蔵モデムを電話回線につなぐ .. 80
i.LINK対応機器をつなぐ 84
USB機器をつなぐ 90
CD-ROMドライブをつなぐ 91
デジタルスチルカメラを使う 93
外部スピーカーを取り付ける 95
ポートリプリケーターを使って拡張する 96

本体を拡張する

メモリーを増設する 101
PCカードを使う 101

セットアップ編

本機の使用環境を設定する

本機の情報を確認する 106
プリンタポートの設定を変更する 107
起動ドライブを指定する 109
パスワードを登録する 110
デバイスを一時的に使用できないように設定する 112
使用するデバイスごとに詳細な設定をする 113

バッテリーの消費電力を節約する

PowerPanelを起動する 115
使用環境にあったプロファイルを選ぶ 116
省電力動作モードについて 119

バッテリーの残量を確認する

BatteryScopeを起動する 121
バッテリー残量の見かた 122

画面表示の設定を変更する

ディスプレイの設定を変更する 123
表示するディスプレイを選ぶ ... 125
アクティブデスクトップをWindows 98のデスクトップ画面からはずす 128

タッチパッドを便利に使う

タッチパッドの設定を変更する 129

その他

使用上のご注意 134
お手入れ 138
保証書とアフターサービス 139
主な仕様 140
ソフトウェアをアンインストールする／再インストールする 142
リカバリCDで本機を再セットアップする 144
キーボードショートカット 149
故障かな？と思ったら 151
索引 164







下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境でのご使用は、火災や感電の原因となります。





内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご相談ください。





内部を開けない

本機および付属の機器（ケーブルを含む）は、開けたり改造したりすると火災や感電の原因となります。
内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。





ACアダプターはプラグ付近を持って抜く

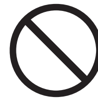
ACアダプターのコード付近を持って抜くと、コンセントを壊すことがあります。壊れた部分を触れると感電の原因となります。



次のページにつづく

指定のACアダプター以外は使用しない

火災や感電の原因となります。



雷が鳴りだしたら、テレホンコードや電源プラグに触れない

感電の原因となります。



ひざの上で長時間使用しない

長時間使用すると本体の底面が熱くなり、低温やけどの原因となります。



本機は日本国内専用です

本機に内蔵されているモデムは国内専用です。海外などでモデムを使用すると、故障・火災・感電の原因となります。



モデムは一般電話回線以外に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機（PBX）へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障・発熱・火災の原因となります。

特に、ホームテレホン・ビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。



次のページにつづく



下記の注意事項を守らないと、
健康を害するおそれがあります。

ディスプレイ画面を長時間続けて見ない



ディスプレイなどの画面を長時間見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

キーボードを使いすぎない



キーボードやタッチパッドなどを長時間使い続けると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやタッチパッドを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

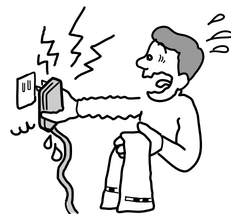


下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手でACアダプターにさわらない

ぬれた手でACアダプターの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。





接続するときは電源を切る

ACアダプターや接続ケーブルを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、ACアダプターや電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。



指定されたACアダプターや接続ケーブルを使う

取扱説明書に記されているACアダプターや接続ケーブルを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

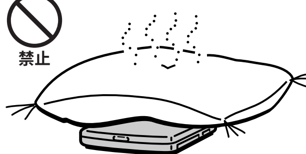


通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 毛足の長い敷物（じゅうたんや毛布など）の上に放置しない。
- 布などでくるまない。





通電中の本体やACアダプターに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。



本体やACアダプターを布や布団などでおおった状態で使用しない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。



次のページにつづく

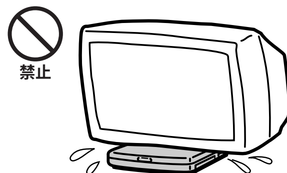
安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置かないでください。また、横にしたり、ひっくり返して置いたりしないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



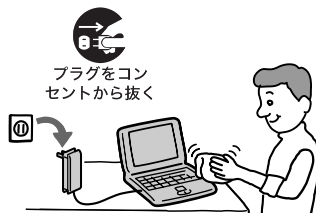
本機の上に重いものを載せない

壊れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。



お手入れの際は、電源を切ってACアダプターを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



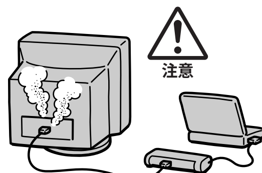
移動させるときは、ACアダプターや接続ケーブルを抜く

接続したまま移動させると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となったり、接続している機器が落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
また、本機を落とさないようにご注意ください。



コネクターはきちんと接続する

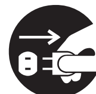
- コネクターの内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むと、ピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。



次のページにつづく

長時間使用しないときはACアダプターを抜く

長時間使用しないときは、安全のためACアダプターをコンセントから抜いてください。

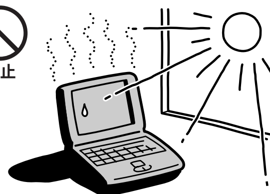


プラグをコンセントから抜く

直射日光のあたる場所や熱器具の近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。

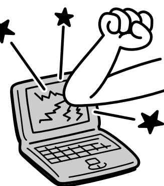




液晶画面に衝撃を与えない

液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。





ディスプレイパネルの裏側を強く押さない

液晶画面が割れて、故障やけがの原因になることがあります。



禁止

本体に強い衝撃を与えない

故障の原因となることがあります。



禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。



禁止

電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

- 指定された充電方法以外で充電しない。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解しない。電子レンジやオーブンで加熱しない。コインやヘヤーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。
- 火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない。
- バッテリーパックに衝撃を与えない。
  落とすなどして強いショックを与えたり、重いものを載せたり、圧力をかけないでください。故障の原因となります。
- バッテリーパックから漏れた液が目に入った場合は、きれいな水で洗った後、ただちに医師に相談してください。
- 本体付属または別売りのバッテリーパック以外は使用しないでください。

⚠警告

バッテリーパックを廃棄する場合は、以下のご注意をお守りください。

- 地方自治体の条例などに従う。
- 一般ゴミに混ぜて捨てない。

または、ソニーサービスステーションにお持ちください。

本機の発熱についてのご注意

使用中に本体の底面やACアダプターが熱くなることがあります

CPUの動作や充電時の電流によって発熱していますが、故障ではありません。使用している拡張機器やソフトウェアによって発熱量は異なります。

本体やACアダプターが普段よりも異常に熱くなったときは

本機の電源を切り、ACアダプターをコンセントから抜き、バッテリーパックを取り外してください。次に、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または購入された販売店に連絡してください。

こんなことができます

VAIOノートが広げるモバイルワールド

本機はモバイル機器として十分な可搬性と、実際のモバイル環境での使いやすさを追求して設計された、ソニーならではのノートブックコンピューターです。ここでは、本機の特長と、本機を使ってできることの例をあげてみましょう。

軽量コンパクト設計の本機を持ち運ぶ

B5ファイルサイズ、約1.2kg（バッテリー含む）の軽量ボディーに、モバイル環境で便利な機能を満載しています。お気軽にどこへでも持ち運べます。

大容量タイプバッテリー（別売り）を装着することで、外出先での使用時間も、最大で約7時間確保できます。

情報を気軽に入力する

付属の「Smart Pad for 505」や「Smart Write for 505」ソフトウェアを使うと、付属のペンでメモを手書き入力できます。「Smart Write for 505」では手書き文字認識機能を使って書いた文字を簡単に清書できます。また、「Smart Label」ソフトウェアを使うと、声のメモを取ることもできます。

キーボードを打てない状態のときでも、大事な情報はのがしません。

プログラマブルパワーキーでワンアクション機能を実現する

付属の「PPK Setup」ソフトウェアを使うことで、プログラマブルパワーキーを押しただけで自動的に電子メールを受信するよう設定したり、音声メモができるよう設定したりできます。

とっさのときに便利な機能を割り当てておくと便利です。

タイマー機能を活用する

付属の「PPK Setup」ソフトウェアを使うことで、深夜に自動的に電子メールを取り込むように設定したりできます。「目覚ましメロディを再生して、その日のスケジュールを表示する」といった自動処理マクロを毎朝実行するよう登録することもできます。

いろいろな組み合わせを試して、自分ならではの活用法を見つけてみましょう。

次のページにつづく

i.LINKを使って画像を取り込む

本機のi.LINKコネクターにつないだ、i.LINK（IEEE1394）インターフェースを持つデジタルビデオカメラレコーダーなどから、デジタル信号のままで美しい動画や静止画を取り込めます。

i.LINKとは？

i.LINKは、i.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。i.LINKについて詳しくは、「i.LINKとは？」（85ページ）をご覧ください。

デジタルスチルカメラから画像を取り込む

別売りのソニーデジタルスチルカメラからケーブルをつながずに、赤外線通信で画像を高速に取り込めます。

VAIO間でファイルを共有する

Smart Connectに対応したVAIOと本機を別売りのi.LINKケーブルで接続し、お互いのファイルをコピーしたり、削除、編集などを行うことができます。また、接続先のVAIOにつないだプリンターを使って印刷することもできます。

AV再生を楽しむ

付属の「Digital Media Park」ソフトウェアを使って、WAVEファイルやMIDIファイルといった、サウンドファイルを再生できます。また、別売りのCD-ROMドライブをつなぐと、音楽CDやビデオCDも再生できます。

インターネットを楽しむ

通信用のモデムを内蔵しているため、インターネットに接続して世界中の情報に接したり、電子メールをやり取りしたりできます 。

ノートブックパソコンとしての特長

本機は軽量で、バッテリーで使用できるノートブックパソコンです。この特長を生かして、本機を使いこなしてください。

外出先でデータ収集

携帯電話やPHSとつないで、外出先でもインターネットに接続して情報収集したり、電子メールで情報交換できます。

旅行や出張のおともに

旅行先から家族・友人に電子メールを送信できます。旅の便りも電子メールで。その日のうちに新鮮な感動が届きます。

使用環境に合わせたバッテリー管理

付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使えば、処理速度を優先したり、バッテリーの寿命を優先したりなどといった動作環境を簡単に設定できます。また、付属の「BatteryScope」ソフトウェアを同時に使うことで、バッテリーの使用可能時間なども同時に把握できます。これで「プレゼンテーション中に突然のバッテリー切れ」といった心配もありません。

マニュアルの使いかた

本書は、以下の4章で構成されています。

❑ 操作編

パソコンを初めてお使いになる方は、「基本的な使いかた」からお読みください。一歩進んだ使いかたは「VAIOを使いこなす」をご覧ください。

❑ 拡張編

プリンターなどの周辺機器のつなぎかたや、PCカードの使いかたなどについて説明しています。

❑ セットアップ編

本機をお使いになる状況や好みに合わせて、本機の設定を変更できます。ここでは、付属のソフトウェアを使った設定のしかたを説明しています。

❑ その他

本機をご使用になる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。本機がうまく動作しないときは、「故障かな？と思ったら」をお読みください。

本機でできることの一部をご紹介します。それぞれ詳しくは右側の参照先の説明をご覧ください。
また、本機にどんなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「付属ソフトウェア一覧」をご覧ください。

こんなことがしたい	詳しくは
インターネットを楽しみたい	「インターネットを楽しむ」(48ページ)
手軽にメモをとりたい	「情報をメモして活用する」(53ページ)
デジタルスチルカメラを使いたい	「デジタルスチルカメラを使う」(93ページ)
他のパソコンのデータを本機で使いたい	「他の機器とデータをやりとりする」(69ページ)

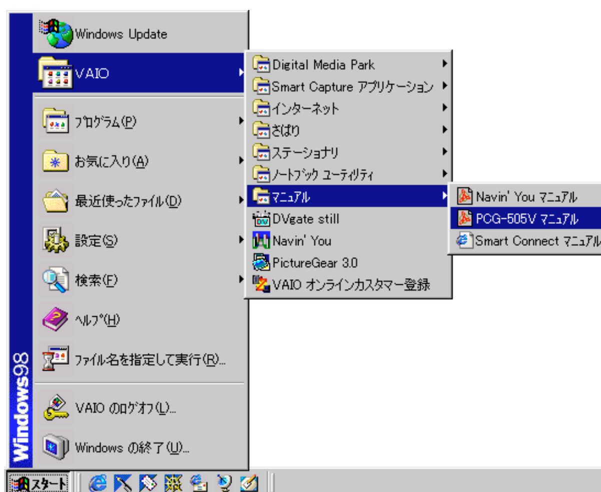
オンラインマニュアルの使いかた

この取扱説明書の内容は、オンラインマニュアルとして画面上でお読みいただけます。取扱説明書を持ち歩かなくても、外出先で本書の内容を参照できます。
また、本機のセットアップのしかたについては、オンラインマニュアルのみに記載されています。

オンラインマニュアルを見るには

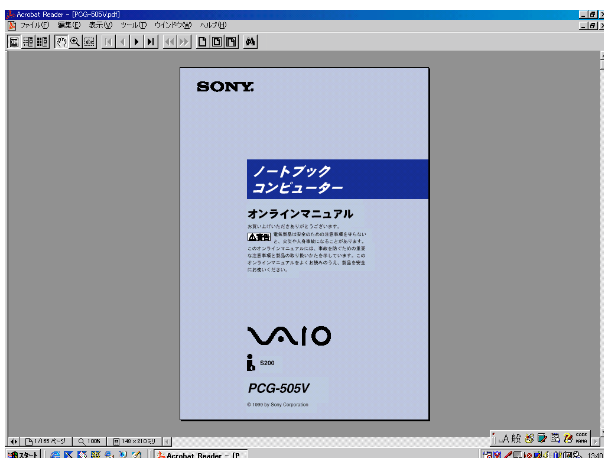
オンラインマニュアルを見るには、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

1 ［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［マニュアル］を選び、［PCG-505Vマニュアル］をクリックする。



次のページにつづく

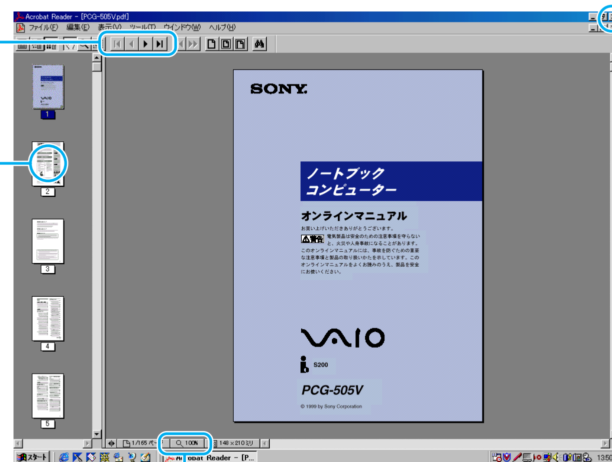
オンラインマニュアルの表紙が表示されます。



オンラインマニュアルの見かた

基本的なオンラインマニュアルの見かたを説明します。

サムネール（縮小表示）を見たいときは、をクリックします。



ページをめくります。

クリックしたページを表示します。

表示の大きさを変更します。

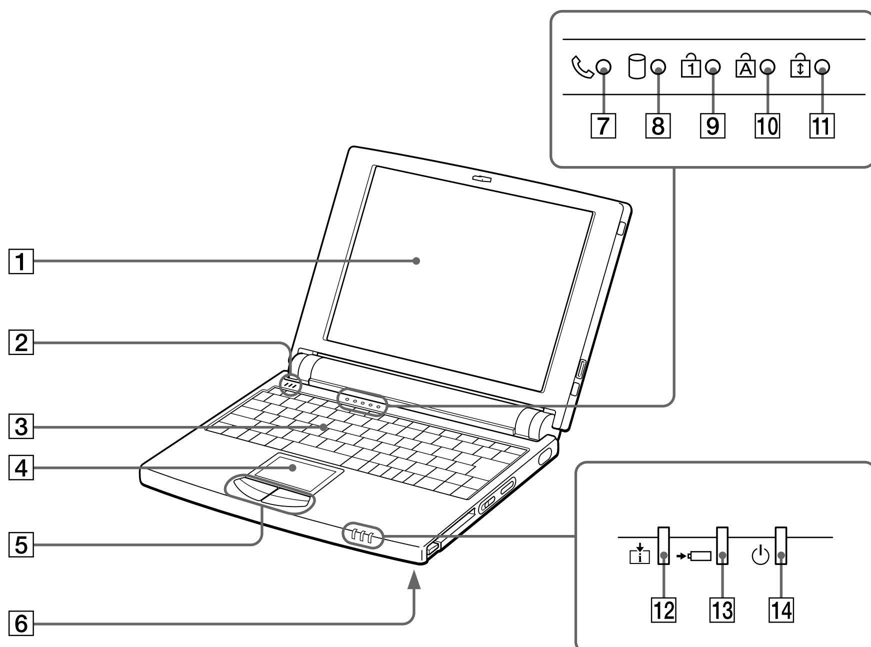
オンラインマニュアルを終了します。

各ソフトウェアのヘルプを見るには

本機に付属しているソニー製のソフトウェアにはヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

各部のなまえ

詳しい説明は、（　）内のページをご覧ください。



1 **液晶ディスプレイ**
（123, 134ページ）

2 **内蔵マイク**（60ページ）

3 **キーボード**（30、149ページ）

4 **タッチパッド**（28, 129ページ）

5 **左／右ボタン**（28ページ）

6 **内蔵スピーカー**
（150ページ）

7 **（モデム）ランプ**

8 **（ハードディスク）ランプ**

9 **(Num Lock) ランプ**
（154ページ）

10 **(Caps Lock) ランプ**

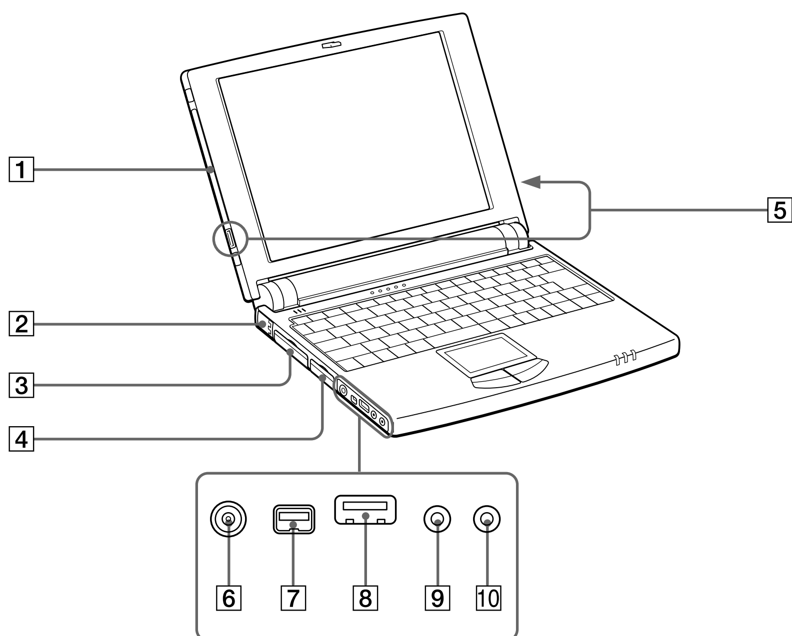
11 **(Scroll Lock) ランプ**

12 **（インフォメーション）ランプ**
（65ページ）

13 **（バッテリー）ランプ**
（45ページ）

14 **（パワー）ランプ**（25ページ）

本機左側面



1 ペン（54ページ）

2 モジュラージャック（81ページ）

3 |/○（ポートリプリケーター）コネクター（96ページ）

4 （フロッピーディスクドライブ）コネクター（40ページ）

5 外部スピーカーコネクター（95ページ）

6 (DC IN) コネクター（24ページ）

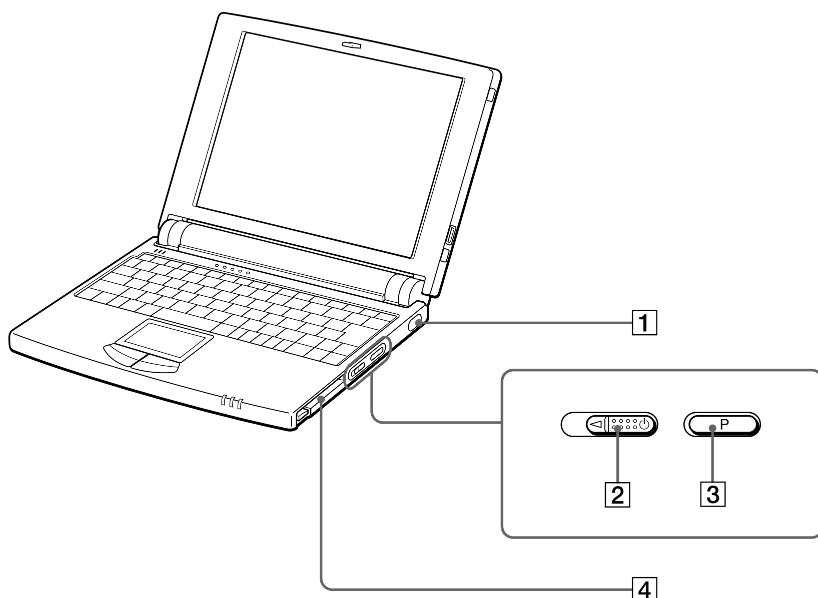
7 S200 (i.LINK) コネクター（84ページ）

8 (USB) コネクター（90ページ）

9 (LINE IN) コネクター

10 （ヘッドホン）コネクター（100ページ）

本機右側面



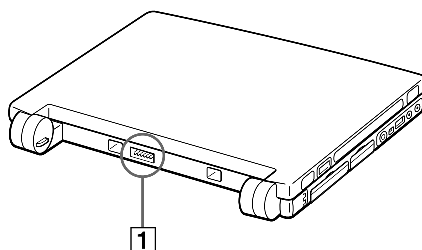
1 **赤外線通信ポート**
(70、93ページ)

2 **パワースイッチ**
(25ページ)

3 **プログラマブルパワーキー**
(62ページ)

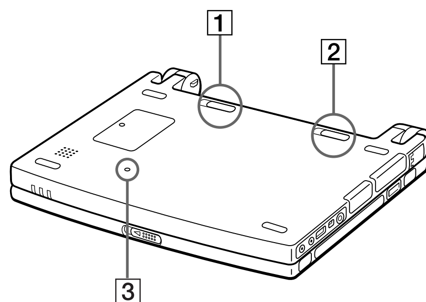
4 PC**カードスロット**
(92、101ページ)

本機後面



1 バッテリーコネクター
（46ページ）

本機底面



1 取りはずしレバー（47ページ）

2 ロックレバー（46ページ）

3 リセットスイッチ（151ページ）

第1章

操作編

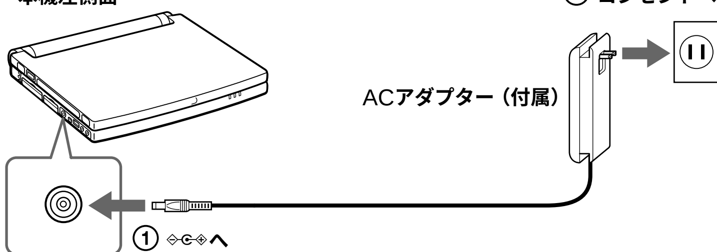
この章では、最初に本機の基本的な使いかたを、
次にいろいろな目的にあった本機の使いかたを
説明します。

基本的な使いかた

電源を入れる

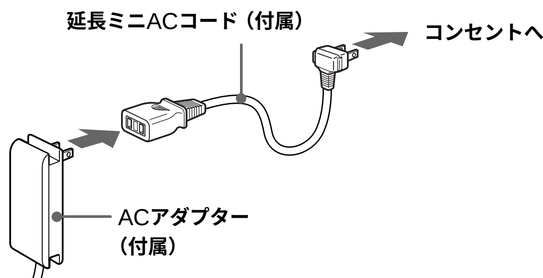
ここではAC電源につないだときの電源の入れかたについて説明します。
バッテリーを使うときは、「バッテリーで使う」（45ページ）をご覧ください。

1 AC**電源をつなぐ。**





本機のACアダプターを差し込み口が複数あるコンセントでお使いになるとき、同一コンセント上に他の機器のACアダプターを差し込むと、本機のACアダプターとぶつかり正しく差し込めないことがあります。
そのときは、別のコンセントをご使用になるか、付属の延長ミニACコードを本機のACアダプターに取り付けてお使いください。



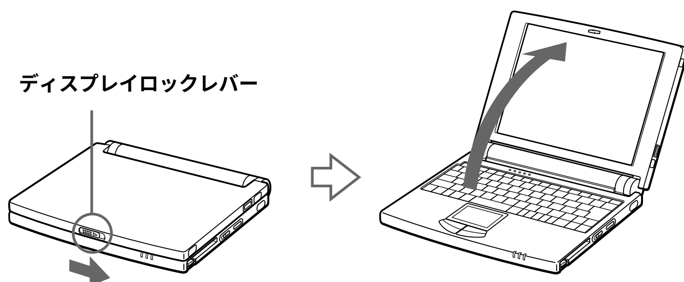
ご注意

- 延長ミニACコードのコード部分を無理に曲げたりしないでください。
- ACアダプターのプラグは、直角になるまできちんと起こしてご使用ください。

次のページにつづく

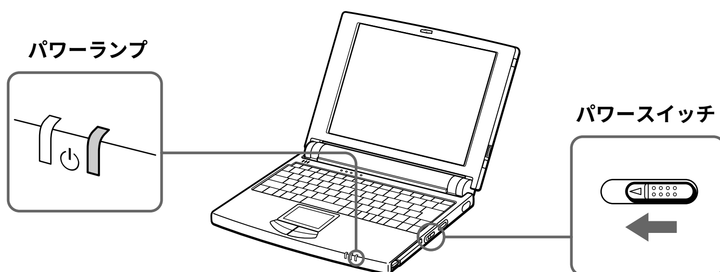
2 ディスプレイパネルを開く。

ディスプレイロックレバーを矢印の方向にずらしながら、ディスプレイパネルを開きます。



3 パワースイッチを◁の方向にずらし、パワーランプが点灯（グリーン）したら離す。

本機の電源が入り、しばらくして、Windows 98が起動します。
初めて電源を入れたときは、Windows 98セットアップ画面が表示されます。Windows 98セットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。



ご注意

4秒以上パワースイッチを◁の方向にずらしたままにすると、電源は切れてしまいます。

電源を切るには

本機の電源を切るときは、次の手順で操作してください。

ご注意

以下の手順通りに電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などのファイルが使えなくなることがあります。

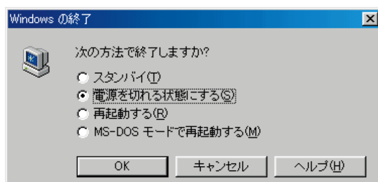
1 ［スタート］ボタンをクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。



2 メニューの［Windowsの終了］をクリックする。

「Windowsの終了」が表示されます。



3 「電源を切れる状態にする」をクリックして選び、つぎに［OK］をクリックする。

「Windowsを終了しています」と数秒表示されてから、本機の電源が自動的に切れ、パワーランプ（グリーン）が消灯します。

次のページにつづく

「スタート」メニューから[Windowsの終了]を選んでも電源が切れないときは

以下の作業を行ってから、再度操作してください。

- 使用中のソフトウェアをすべて終了する。
- PCカードをお使いの場合は、「PCカードを取り出す」(104ページ)の手順に従ってPCカードを取り出す。
- USB機器を接続しているときは取りはずす。
- 赤外線通信を終了する、または使用不可にする。

それでも電源が切れないときは、「故障かな?と思ったら」の「電源が切れない」(152ページ)をご覧ください。



移動するときなどしばらく作業を中断するときや、翌日まで本機を使わないときなどは、システム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードを使うと便利です。詳しくは「バッテリーの消費電力を節約する」(115ページ)、「省電力動作モードについて」(119ページ)をご覧ください。

再起動するには

本機の設定を変更したり、アプリケーションソフトをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要があります。

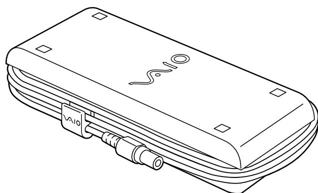
1 **[スタート]ボタンをクリックする。**
「スタート」メニューが表示されます。

2 **メニューの[Windowsの終了]をクリックする。**
「Windowsの終了」が表示されます。

3 **「再起動する」をクリックして選び、つぎに[OK]をクリックする。**
「Windowsを終了しています」と数秒間表示されてから、本機が再起動します。

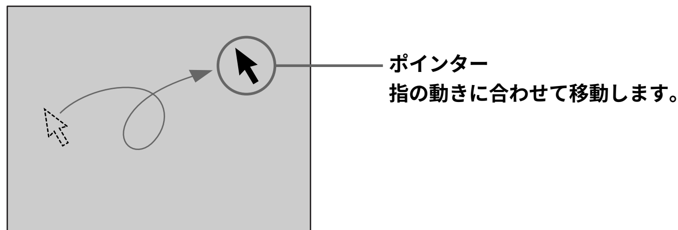
ACアダプターを持ち運ぶときは

コードをACアダプターの側面に巻きつけると、コードが邪魔になりません。

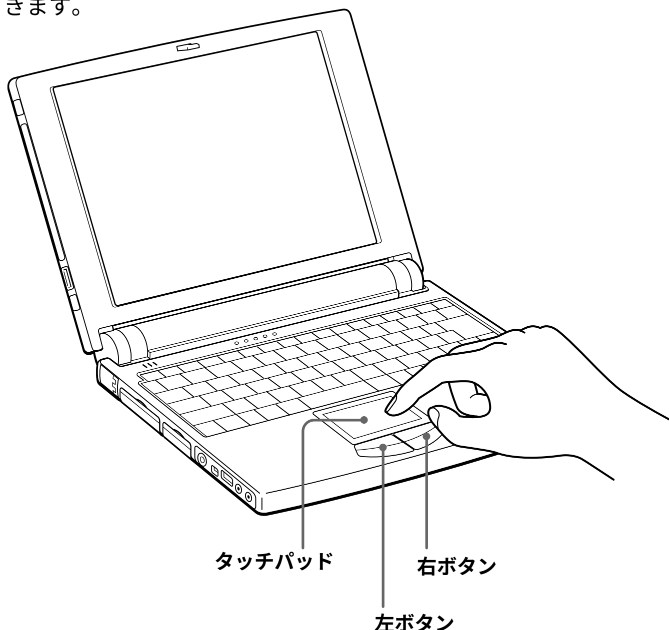


タッチパッドを使う

タッチパッドに触れて指を動かすと、画面上のポインターも同じ方向に移動します。



ポインターを目的の位置まで動かして左または右のボタンを押すだけで、メニューを選んだり、さまざまな命令をコンピューターに伝えることができます。



クリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、タッチパッドの手前にある左ボタンを1回押します。［OK］や［キャンセル］などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。

また、タッチパッドを指で1回軽くたたいても同じ働きをします。

次のページにつづく

ダブルクリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、左ボタンを2回続けて押します。
ワードプロセッサーや表計算などのソフトウェアを実行したり、作成した文書などのファイルを開くときなどに使います。
またタッチパッドを、2回続けて軽くたたいても同じ働きをします。

ドラッグする

ポインターを希望の位置に合わせて、左ボタンを押したまま、タッチパッド上で指を動かし、希望の位置でボタンを離します。ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。
また、タッチパッドを2回続けて軽くたたき、そのままタッチパッド上で指を動かして希望の位置で離しても同じ働きをします。

右クリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、右ボタンを1回押します。
押したときのポインターの位置によって、さまざまな内容のポップアップメニューが表示されます。

スクロールする

指をタッチパッド上の右端に合わせて、上下に動かします。選択されているアプリケーション上の垂直方向のスクロールバーを移動できます。

ご注意

- スクロール機能を使うには、アプリケーション側の対応が必要です。対応していないアプリケーションでは、この機能は使えません。
- タッチパッド右端は、スクローリング機能のためポインターが動かないことがありますが、故障ではありません。詳しくは「スクローリング機能を使う」（131ページ）をご覧ください。

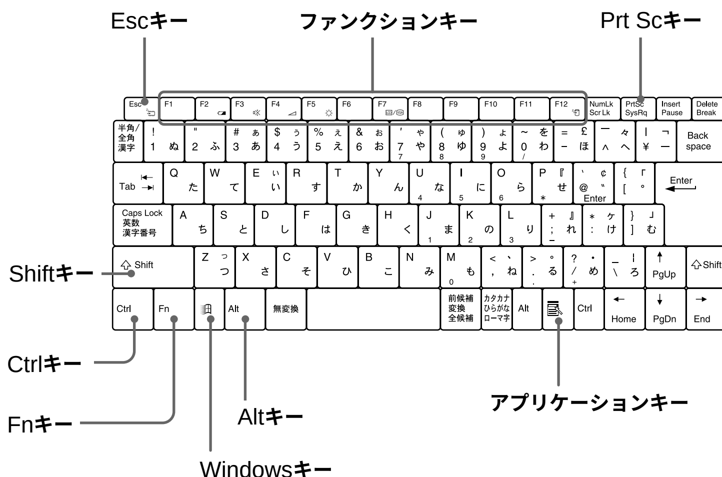


上記は工場出荷時の設定です。設定を変更したり、タッチパッドをより便利に使うには、「タッチパッドを便利に使う」（129ページ）をご覧ください。

キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、パソコンへ命令を送ることができます。ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊なキーのなまえと機能を紹介します。

文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」（32ページ）をご覧ください。



なまえ	機能
ファンクションキー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。
Ctrl（コントロール）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 例）Ctrlキーを押しながら、Sキーを押す。 メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。

次のページにつづく

なまえ	機能
Alt（オルト）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。オルタネートキーともいいます。 使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
Shift（シフト）キー	文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。
Windows （ウィンドウズ）キー	Windows 98の「スタート」メニューが表示されます。 他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。 「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」（149ページ）をご覧ください。
アプリケーションキー	タッチパッドの右ボタンを押したときと同じ働きをします。
Fn（エフエヌ）キー	キーボード上で紫色で表記されている機能を使うとき、このキーと組み合わせて押します。 ファンクションキー（F1からF12キー）などと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。 「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（150ページ）をご覧ください。
Esc（エスケープ）キー	設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。
Prt Sc（プリントスクリーン）キー	表示されている画面を取り込みます。取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェア上に貼りつけられます。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」という文章を作成するためのソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。キーボード上の各キーのなまえと働きについて詳しくは、「キーボードを使う」（30ページ）をご覧ください。

日本語入力のまえに

ここでは、ワードパッドを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

1 ワードパッドを起動する

まず、ワードパッドを起動します。

1 ［スタート］ボタンをクリックする。

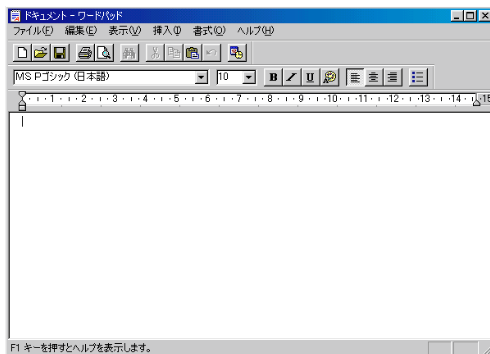
スタートメニューが表示されます。



次のページにつづく

2 **［プログラム］にポインターを合わせ、［アクセサリ］から［ワードパッド］をクリックする。**

ワードパッドが起動し、文字を入力する画面が表示されます。



2 日本語入力を選ぶ

キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。

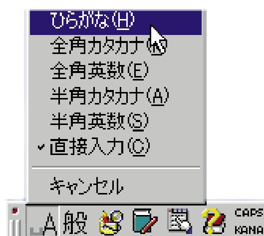
日本語を入力するためには、画面に表示されているMS-IME98のツールバーを使って、入力文字を切り換える必要があります。



MS-IME98**ツールバー**

1 MS-IME98**ツールバーの［␣A］をクリックする。**

文字入力選択メニューが表示されます。



2 **［ひらがな］をクリックする。**

画面上に表示されているツールバーの表示が［␣A］から［あ］に変わり、日本語を入力できるようになります。



［␣A］から［あ］に変わる。

次のページにつづく

ツールバーが表示されていないときは

タスクバーの右側にある をクリックして、「ツールバーを表示」をクリックします。

ツールバーについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98ファーストステップガイドをご覧ください。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。

なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1文字を入力するために2つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちらが便利です。

かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り換える

MS-IME98ツールバーの［KANA］をクリックするか、Ctrlキーを押しながら英数キーを押す。

ローマ字入力とかな入力とが切り換わります。

かな入力



KANAの文字が押された状態



［KANA］をクリックするか、Ctrlキーを押しながら英数キーを押す。

ローマ字入力



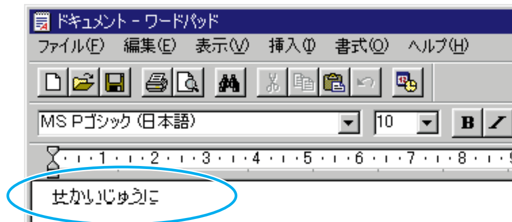
KANAの文字が押されていない状態

文字を入力する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。
例として、「世界中にひろがったVAIOノート」という言葉を入力してみます。

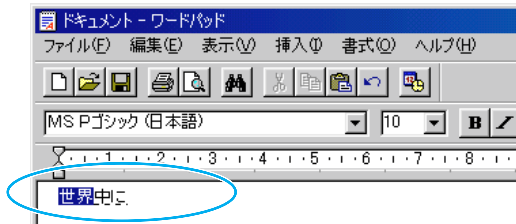
1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。



- **ローマ字入力の場合**
  S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。
- **かな入力の場合**
  せ、か、い、し、゛（濁点）、ゅ（Shiftキーを押しながら「ゆ」を押します）、う、に、の順にキーを押します。
  キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

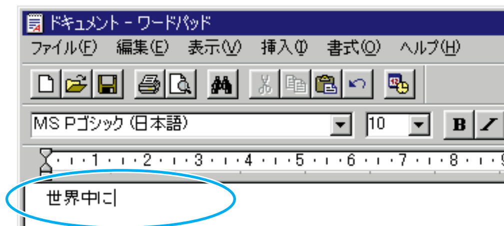
2 スペースキーを押す。



入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。
まちがった漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、何回かスペースキーを押します。

次のページにつづく

3 Enterキーを押す。



変換が確定します。

間違って入力したときは

次のキーを使って修正します。

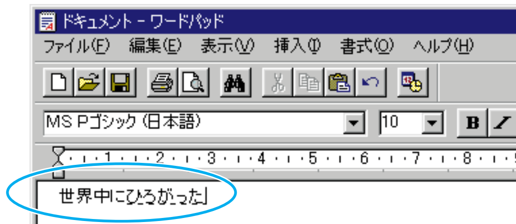
Backspace**キー**：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Delete**キー**：カーソルのある位置の1字を消します。

Esc**キー**：確定していない文字をすべて消去します。

2 ひらがなを入力する

1 「ひろがった」の読みを入力する。



- **ローマ字入力の場合**

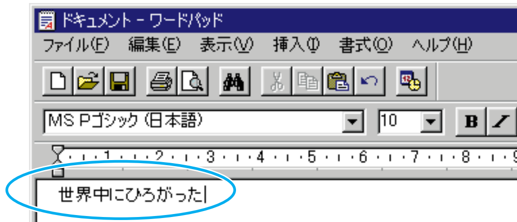
  H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。
- **かな入力の場合**

  ひ、ろ、か、゛（濁点）、っ（Shiftキーを押しながら「つ」を押します）、た、の順にキーを押します。

  キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

次のページにつづく

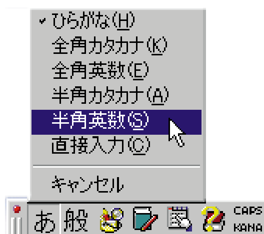
2 Enter**キーを押す。**



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

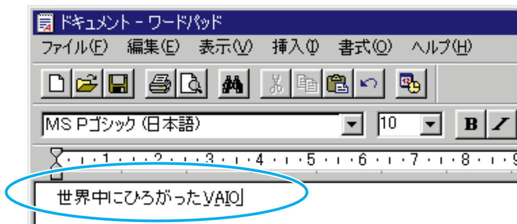
3 英字を入力する

1 MS-IME98**のツールバーの［あ］をクリックして、［半角英数］を選ぶ。**



ツールバーの表示が［␣A］になり、アルファベットが入力できる状態になります。

2 Shift**キーを押しながら、**V、A、I、O**の順にキーを押す。**



3 Enter**キーを押す。**



アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shiftキーを押す必要はありません。

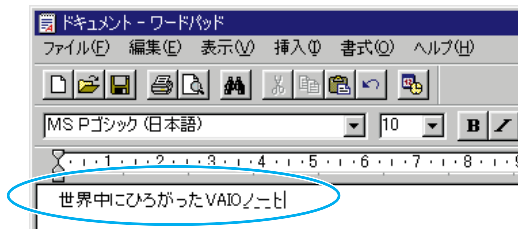
次のページにつづく

4 カタカナを入力する

1 **MS-IME98のツールバーの［␣A］をクリックして、［全角カタカナ］を選ぶ。**

ツールバーの表示が［カ］になり、カタカナが入力できる状態になります。

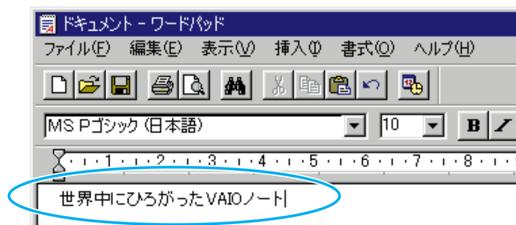
2 **「ノート」の読みを入力する**



- ローマ字入力の場合
  N、O、-（長音、［＝ ほ］キー）、T、Oの順にキーを押します。
- かな入力の場合
  の、―（長音、［¥ ー］キー）、と、の順にキーを押します。
  キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

次のページにつづく

3 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

これで「世界中にひろがったVAIOノート」と入力できました。

キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、付属のMicrosoft Windows 98ファーストステップガイドまたはMS-IME98のヘルプをご覧ください。



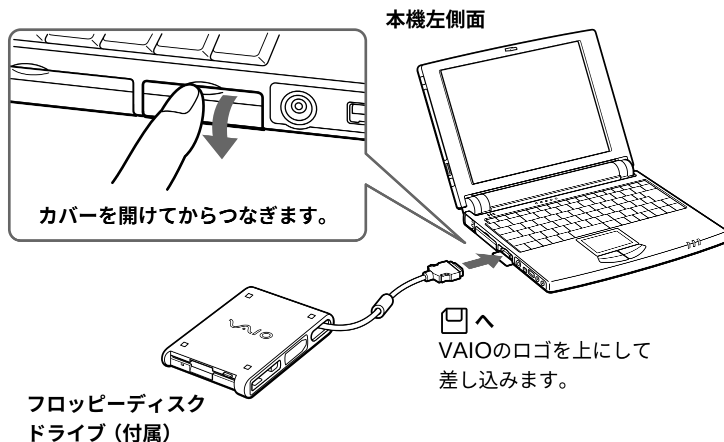
- 全角の「～」を入力するには、MS-IME98ツールバーで「ひらがな」を選び（33ページ）、ひらがなで「から」と入力し、「～」が選ばれるまでスペースキーを押します。
- URLで使われる半角の「~」を入力するには、MS-IME98ツールバーで「半角英数」（37ページ）または「直接入力」を選び、Shiftキーを押しながら「＾」を押します。

フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽い、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。
ここでは、フロッピーディスクドライブの取り付けかたや、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

フロッピーディスクドライブを取り付ける

フロッピーディスクドライブのケーブルを本機につないで、フロッピーディスクドライブ（付属）を本機に接続します。
本機の電源を切ってから接続してください。

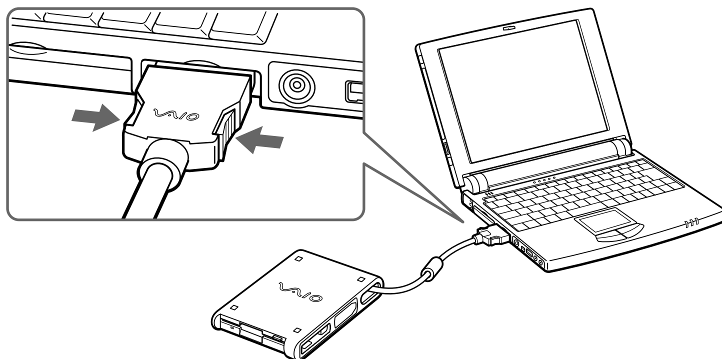


電源を入れると、フロッピーディスクドライブは自動的に認識されます。

次のページにつづく

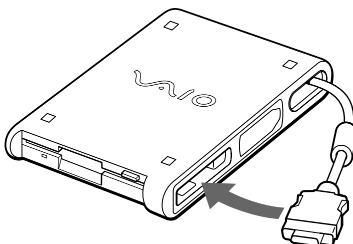
フロッピーディスクドライブを取りはずすには

本機の電源を切ってから、コネクターの両端をつまんでケーブルをはずします。



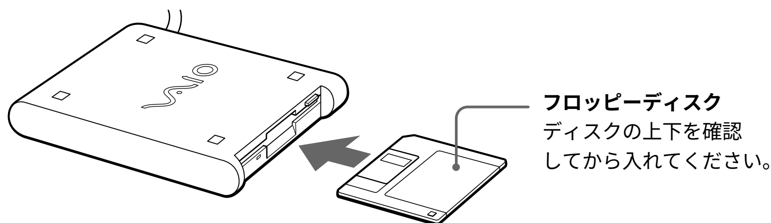
フロッピーディスクドライブを持ち運ぶときは

取りはずしたあとは、ケーブルをフロッピーディスクドライブ側面にはめ込むと、ケーブルが邪魔になりません。



フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。



本機で使うフロッピーディスクは、あらかじめ初期化しておく必要があります。市販されているフロッピーディスクをお使いになるときは、「DOS/V 1.44MBフォーマット済」のものをご購入ください。初期化する必要がなくなります。

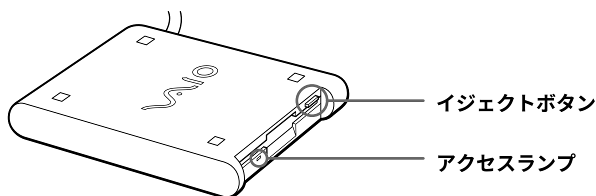
その他、本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、次ページの「使用できるフロッピーディスク」をご覧ください。

フロッピーディスクを取り出すには

ディスクドライブのアクセスランプが点灯していないことを確認してから、イジェクトボタンを押します。

ご注意

アクセスランプが点灯しているときにイジェクトボタンを押すと、ディスクの破損の原因となります。



イジェクトボタンを押してもフロッピーディスクが取り出せないときは

フロッピーディスクドライブを取りはずして、VAIOカスタマーリンクにご連絡ください。

データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

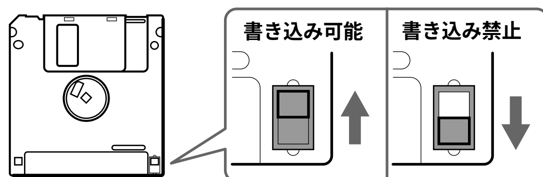
❑ **書き込み可能**

データの書き込みが可能な状態です。

❑ **書き込み禁止**

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。

フロッピーディスク裏面



使用できるフロッピーディスク

3.5インチフロッピーディスクには、2HD（両面高密度）タイプと2DD（両面倍密度倍トラック）タイプのものがあり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。
本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2HD 1.2Mバイト	読み書きともに可。 FORMAT、SYS、DRVSPACE（ドライブスペース）、DISKCOPYコマンドは実行不可。

次のページにつづく

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のパソコンとデータのやりとりをする場合は、下記のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいパソコンのフロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトのフロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイト
1.2Mバイトのフロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは2DD 720Kバイト

- 市販のアプリケーションソフトはフロッピーディスクの種類に関係なく作られていますが、一部のソフトウェアには2HD 1.44Mバイトおよび2DD 720Kバイト専用に作られているものがあります。これらのソフトウェアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

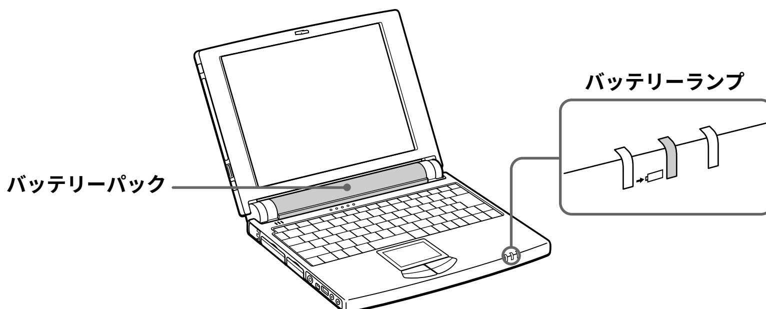
バッテリーで使う

充電したバッテリーパックを本機に装着していると、AC電源につながなくても本機を使えます。別売りの大容量タイプのバッテリーパック（PCGA-BP52）を取り付けることもできます。

ご注意

- 出荷時に装着されているバッテリーは完全には充電されていないため、はじめてお使いになるときからバッテリーが消耗している状態になっていることがあります。
- 本機は、バッテリーの残量がわずかになると、自動的にシステム ハイバネーションモード*になるよう工場出荷時に設定されていますが、ご使用中のソフトウェアや接続している周辺機器によっては、Windowsからの指示で作業を一時中断することができないため、この機能が正しく働かないことがあります。
  長時間席を外されるときなどに、バッテリーが消耗した際、自動的にシステム ハイバネーションモードにならないと、本機の電源が切れ、作業中のデータが失われてしまうおそれがあります。
  バッテリーでご使用のときは、こまめにデータを保存したり、手動でシステム サスペンドモード、またはシステム ハイバネーションモードにしてください。

* システム ハイバネーションモードでは、作業中の状態がハードディスクに保存され、本機の電源が切れます。
  操作のしかたなど詳しくは、「省電力動作モードについて」（119ページ）をご覧ください。



バッテリーランプについて

本機の動作状態を示します。

点灯	バッテリー動作中
パワーランプと一緒に点滅	バッテリーの残量が少ない状態
2度連続点滅	バッテリー充電中
消灯	バッテリー切れ、またはAC電源で動作中

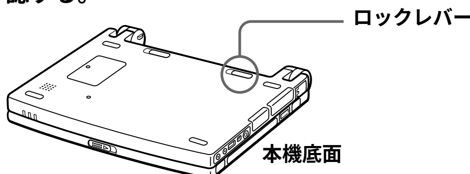


- 完全に充電したバッテリーでの使用時間の目安は標準タイプで約1.5～3時間、大容量タイプで約3～7時間です。
  バッテリーの使用時間について詳しくは、「バッテリーの残量を確認する」（121ページ）をご覧ください。
- AC電源につないでいるときは、バッテリーパックを装着しているときでも、AC電源から電源が供給されます。
- バッテリーで長時間使うには
  付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使って本機の動作モードをスタミナモードに変更することで、バッテリーの使用時間をのばすことができます。詳しくは「バッテリーの消費電力を節約する」（115ページ）をご覧ください。
- バッテリーの残量を確認するには
  付属の「BatteryScope」ソフトウェアを起動すると、バッテリーの残量と予想使用時間を確認できます。詳しくは、「バッテリーの残量を確認する」（121ページ）をご覧ください。

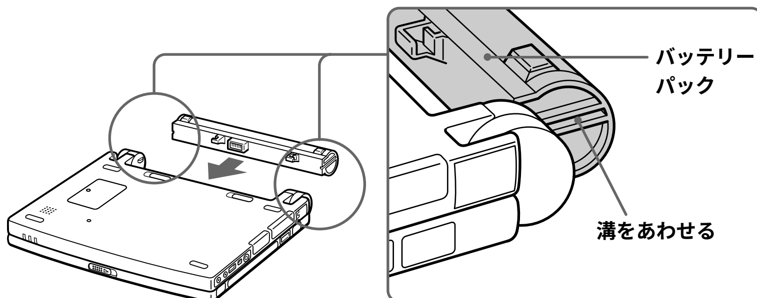
バッテリーパックを取り付ける

本機後面のバッテリー取り付け部にバッテリーパックを取り付けます。

1 本機底面のロックレバーが解除されている（外側にある）ことを確認する。



2 本機後面とバッテリー両端の溝をあわせ、カチッと音がするまでバッテリーを差し込む。



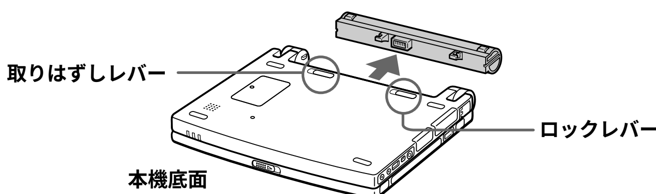
3 ロックレバーを内側にずらして、バッテリーを固定する。

バッテリーパックを取りはずすには

1 **本機の電源を切る。**

2 **ロックレバーを外側にずらす。**

3 **取りはずしレバーを外側にずらして、バッテリーを取りはずす。**



ご注意

- ACアダプターをつないでいない状態で、本機の電源を入れたままバッテリーを取りはずすと、作業中のデータが失われます。
- ACアダプターをつないでいない状態で、本機がシステム サスペンドモードのときにバッテリーを取りはずすと、保存されていないデータは失われます。

バッテリーを充電する

本機をAC電源につないでいれば、本機を使っていてもバッテリーは充電されます。充電中は、バッテリーランプが2度連続で点滅します。
付属の標準バッテリーの場合、バッテリーの残量が空の状態から充電されるまでに約1.5時間かかります（約85%充電、使用状況による）。
バッテリーが約85%まで充電されると、バッテリーランプは消灯します。
約85%まで充電されたバッテリーは、約1時間後に完全に充電されます。



別売りのバッテリーチャージャーPCGA-BC5で充電することもできます。詳しくはPCGA-BC5の取扱説明書をご覧ください。

VAIOを使いこなす

インターネットを楽しむ

本機には電話回線に接続して通信を行うためのモデムが内蔵されているので、電話線につないでインターネットを楽しむことができます。

インターネットに接続する

ここではインターネットに接続するための大まかな流れを説明します。

電話線につなぐ

本機に内蔵しているモデムを電話線につなぎます。
詳しくは、「内蔵モデムを電話回線につなぐ」（80ページ）をご覧ください。

↓

インターネットサービスプロバイダーと契約する

次ページの「プロバイダーと契約するには」をご覧ください。

↓

インターネットに接続する

詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

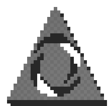
次のページにつづく

プロバイダーと契約するには

本機には以下のネットワークサービスに入会するためのソフトウェアが付属しています。詳しくは「付属ソフトウェア一覧」および各接続会社の入会案内をご覧ください。



ソニーグループのプロバイダー「So-net」です。
年中無休のカスタマーサポートで安心・快適にインターネットをご利用いただけます。
大人気の愛玩電子メールソフト「ポストペット」に加え、ますます充実のオンラインコンテンツ110タイトル！オンラインショップが200店舗！
さらに、今ならSo-net入会特典付き！それは楽しいインターネット、So-netです。



AOL（エーオーエル）の特長は、インターネットも電子メールも簡単にできること、他のインターネット接続サービスに比べて、情報や出会いの場がたくさん用意されていること、そして、何より最初の100時間は無料で使えることです。
本機の電源を入れたら、AOLをクリック！きっと10分もしないうちに、ネットワークの楽しさに夢中になれます。



ODNは市外電話0088、国際電話0041でおなじみの日本テレコム株式会社が提供するインターネット接続サービスです。
日本テレコムならではの大容量回線であなたのインターネットライフをサポートします。



みんなが選んだインターネットプロバイダー、ニフティサーブ！
国内最大の会員数を誇るニフティサーブなら、メールやホームページ作成はもちろん、あらゆるジャンルの情報サービス、多くの出会いの場でネットワークライフが一層豊かに！全国に広がるアクセスポイントで快適アクセス！ご入会後にはマニュアルをプレゼント！



「ぷらら」は、ソニー、NTT、セガ、ビクター、ヤマハの5社が共同開発したプロバイダーです。お得な料金体系で、話し中がほとんどない、しかも高速のインターネット接続がご利用いただけます。さらに、オンラインショッピングや、多彩なメール機能、ページャ、チャットなど、様々なコンテンツをお楽しみいただけます。

外出先でインターネットにアクセスする

ここでは、外出先でインターネットにアクセスする方法の概略を説明します。外出先でアクセスできるようにしておくと、外出先でどうしても電子メールを送信したいときや、電子メールを確認したいときに便利です。

外出先でインターネットにアクセスするには、4通りの方法があります。

- 公衆電話を使ってアナログ接続する
- 公衆電話を使ってISDN接続する
- デジタル携帯電話を使って接続する
- PHSを使って接続する

公衆電話を使ってアクセスする



デジタル携帯電話やPHSを使ってアクセスする



次のページにつづく

公衆電話を使ってアナログ接続する

本機はモデムを内蔵しているので、モジュラージャックのある公衆電話に直接つなげます。
テレホンコードとモジュラージャック付きの電話機さえあれば、どこからでもアクセスできますが、アナログ接続のため、使用する電話機によってはすぐに接続が切れてしまうことがあります。

1 **本機と電話機のアナログポートをテレホンコードでつなぐ。**

2 **電話機の「データ通信」ボタンを押す。**

3 **テレホンカードを入れる。**

4 **通信用のソフトウェアを起動する。**
これでインターネットにアクセスできます。

通信を終了するときは

次の2つの方法があります。使用するソフトウェアにあわせて使い分けてください。

- タスクトレイの を右クリックして、ショートカットメニューを表示させてから、[切断] を選ぶ。
- 通信用ソフトウェアで、通信を終了するコマンドを実行する。

ご注意

公衆電話のデジタルポートにはつながないでください。故障の原因となります。

公衆電話を使ってISDN接続する

ISDNのTA（ターミナルアダプター）カードを本機に装着してモジュラージャックのある公衆電話につなぐと、外出先でもISDN経由で接続できます。
通信速度が速く（最大64kbps）、安定した状態でアクセスできますが、市販のISDNのターミナルアダプターカードが必要です。

ご注意

アクセスしようとしているプロバイダーがISDNに対応しているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。プロバイダーによっては通常のアナログ接続用とISDN接続用で、異なる電話番号を用意していることがあります。

次のページにつづく

デジタル携帯電話を使って接続する

本機をデジタル携帯電話に接続して、インターネットにアクセスできます。

デジタル携帯電話が使えるところではどこからでも、また移動中でもアクセスできますが、通信速度が遅く（9600bps）、携帯電話にあわせた接続キットが必要です。

ご注意

接続キットや接続のしかたについて詳しくは、電話会社にお問い合わせください。

PHSを使って接続する

本機をPHSに接続して、インターネットにアクセスできます。

通信速度が速く（最大32kbps）、PHSが使えるところではどこからでもアクセスできますが、PHSにあわせた接続キットが必要です。また、PIAFS方式で接続するときは、契約しているプロバイダーなどがPIAFSに対応している必要があります。

ご注意

- 接続キットや接続のしかたについて詳しくは、電話会社にお問い合わせください。本機のPCカードスロットに直接装着できるPHSもあります。
- PIAFS方式でアクセスするときは、接続しようとしている電話番号がPIAFS方式に対応しているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。

外出先で使うときのヒント

プログラマブルパワーキーに電子メールソフトウェアの起動からメールの確認までを登録しておくと、ボタン1つで電子メールの確認ができるので便利です。詳しくは、「ワンタッチで電子メールを確認する」（66ページ）をご覧ください。

情報をメモして活用する

本機のメモ機能について

本機には、情報を気軽にメモして活用するために、次の4種類のソフトウェアを付属しています。

- Smart Pad for 505：絵や地図のメモをとるときに便利です。（55ページ）
- Smart Write for 505：文字を中心にメモをとるときに便利です。（56ページ）
- 手書き文字認識パッド：手書きで入力した文字を「メモ帳」などのワープロソフトに入力できます。（58ページ）
- Smart Label：音声でメモをとるときに便利です。（60ページ）

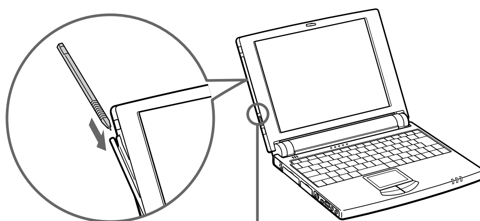
「Smart Pad for 505」、「Smart Write for 505」および「手書き文字認識パッド」ソフトウェアでは、本機に付属しているペンを使ってメモをとれます。

また、「Smart Label」ソフトウェアでは、本機の内蔵マイクに向かって話すことで、必要な情報を録音できます。

付属のペンについて

お買い上げ時、ペンは説明書と同じ袋に入っています。お使いにならないときは、液晶ディスプレイパネルの左側面に収納してください。

ペンホルダーを出し、SONYまたはVAIOロゴが手前になるようにペンを収納します。



この部分を押してペンホルダーを出す

ご注意

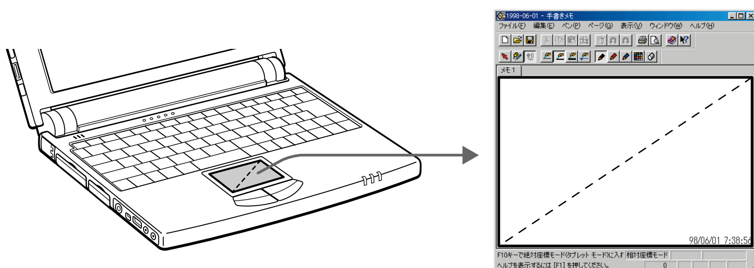
- 付属のペンはタッチパッド操作専用です。タッチパッド以外には使用しないでください。特に、液晶ディスプレイには絶対にペンを当てたりしないでください。液晶ディスプレイの故障の原因となります。
- ペンをなくさないために、使い終わったら必ず液晶ディスプレイパネルの左側面に収納してください。

手書きの絵メモをつくる（Smart Pad for 505）

おいしいレストランの場所をちょっとメモしておきたいときなどに、文字では表現しにくい地図などでも簡単にメモしておくことができます。

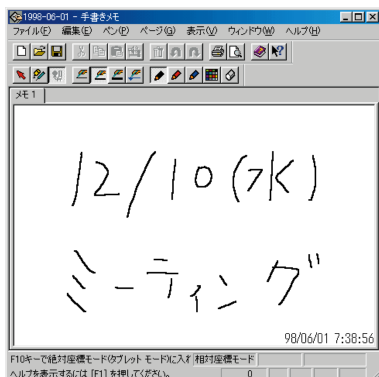
1 **［スタート］ボタンをクリックし、［VAIO］にポインターを合わせ、［ステーショナリ］を選び、［Smart Pad］をクリックする。**
「Smart Pad for 505」が起動します。

2 **F10キーを押す。**
Smart Pad for 505が絶対座標モードになり、タッチパッドと画面上のメモ帳が下図のように対応するようになります。



絶対座標モードではツールバーのボタンをクリックしたり、メニューからコマンドを選んだりできなくなるので、その場合はもう1度F10キーを押して、相対座標モード（普通の状態）に戻してください。

3 **ペンを使ってタッチパッド上に図形や文字をゆっくり書く。**
ペンの動きに合わせて、Smart Pad for 505のメモ帳に図形や文字が記入されます。



次のページにつづく

4 **Smart Pad for 505を終了するときは、F10キーを押して相対座標モードにしてから、［ファイル］メニューから［アプリケーションの終了］を選ぶ。**

終了するまえに、作成したメモをデスクトップに貼りつけることもできます。詳しくは「作成したメモをデスクトップに貼りつける」（61ページ）をご覧ください。

また、Smart Pad for 505を使いこなすために、「Smart Pad for 505」のヘルプもあわせてご覧ください。

図形や文字を消すには

図形や文字の全体を1度に消したり、部分的に消せます。

- 全体を1度で消す
  「編集」メニューから［削除］を選びます。
- 部分的に消す
  「ペン」メニューから［背景色］を選び、消したい部分をなぞります。

手書き文字で記録をとる（Smart Write for 505）

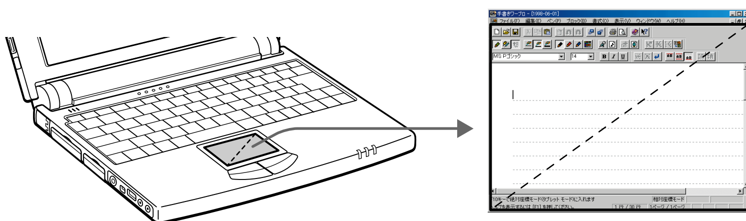
ちょっとしたメモをとりたいときなどに、キー入力の苦手な人でも手軽にメモをとれます。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［VAIO］にポインターを合わせ、［ステーショナリ］を選び、［Smart Write］をクリックする。**

「Smart Write for 505」が起動します。

2 **F10キーを押す。**

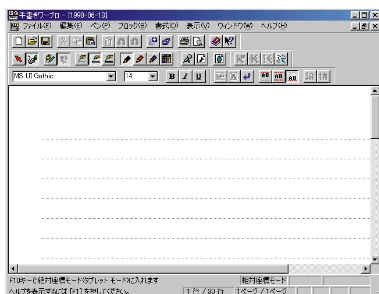
Smart Write for 505が絶対座標モードになり、タッチパッドと画面上のメモ帳が下図のように対応するようになります。



次のページにつづく

3 **ペンを使ってタッチパッド上に文字をゆっくり書く。**

1文字ずつ、またはいくつか文字をまとめて書くこともできます。
タッチパッドからペンを一定時間離すと書いた文字が確定され、自動的に大きさが変換されて記入されます。



キーボードを使って文字を入力することもできます。
画像（ビットマップファイル）や音声も一緒にメモできます。

文字認識機能が使えます

手書き文字を一括認識して清書することもできます。
Ctrl+Rキー、またはをクリックして実行します。

4 **Smart Write for 505を終了するときは、F10キーを押して相対座標モードにしてから、［ファイル］メニューから［アプリケーションの終了］を選ぶ。**

Smart Write for 505を使いこなすために、「Smart Write for 505」のヘルプもあわせてご覧ください。

好みに合わせて、線の色や幅を変えられます

「ペン」メニューからペンの色やペン幅を選びます。

文字を消すには

Backspaceキーまたは Deleteキーを押す。
複数の文字を1度にまとめて書いたときは、そのブロックごとに文字が消えます。

手書き文字を通常のテキストに変換する（手書き文字認識パッド）

「メモ帳」や「ワードパッド」などの手書き文字認識機能を持っていないワープロソフトに、手書きで文字を入力できます。キー入力は苦手だが文章を入力したいときなどに便利です。
ここでは、例として「メモ帳」に手書き文字を入力する手順を説明します。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［プログラム］にポインターを合わせ、［アクセサリ］を選び、［メモ帳］をクリックする。**
「メモ帳」が起動します。

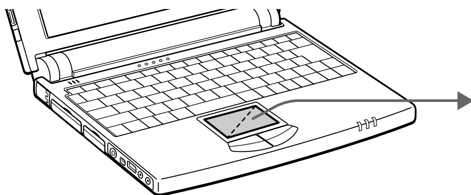
2 **［スタート］ボタンをクリックし、［VAIO］にポインターを合わせ、［ステーショナリ］を選び、［手書き文字認識パッド］をクリックする。**
「手書き文字認識パッド」が起動し、画面右下にアイコンが表示される。

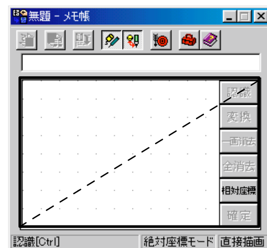


ここをクリックする

3 **アイコンをダブルクリックする。**
パッドダイアログが表示されます。

4 **F10キーを押す。**
手書き文字認識パッドが絶対値モードになり、タッチパッドと画面上のパッドダイアログが下図のように対応するようになります。





次のページにつづく

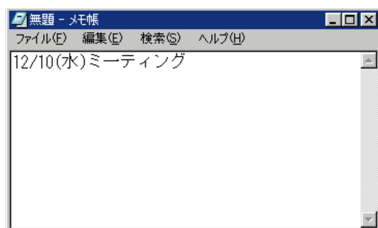
5 ペンを使って入力する。

入力後、文字が自動的に認識されます。



6 Enterキー（または確定ボタン）を押す。

メモ帳に認識された文字が入力されます。



7 手書き文字認識パッドを終了するときは、右下のアイコンを右クリックして、［終了］を選ぶ。

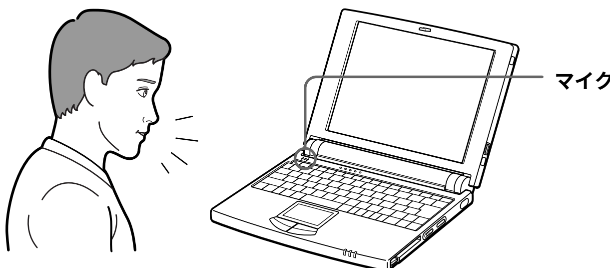
手書き文字認識パッドを使いこなすために、「手書き文字認識パッド」のヘルプもあわせてご覧ください。

音声でメモをとる（Smart Label）

電話中にとっさに番号をメモしたいというときなど、相手の言う電話番号を本機の前で復唱するだけで簡単にメモがとれます。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［VAIO］にポインターを合わせ、［ステーショナリ］を選び、［Smart Label］をクリックする。**
「Smart Label」が起動し、画面右下にが表示されます。

2 **画面右下のをダブルクリックし、本機のマイクに向かって話す。**
ラベルが表示され、音声が録音されます。設定により、最大で60秒間の録音ができます。



3 **録音を終了するときは、■をクリックする。**
録音の終了したラベルは、画面上の好きな場所に配置できます。

メモを再生するには

ラベルをクリックし、►をクリックする。
録音したメモが再生されます。再生を一時停止するには❚❚を、終了するには■をクリックします。

メモを消すには

消したいラベルをタッチパッドの右ボタンでクリックし、［ラベルの削除］をクリックする。
ラベルが消去されます。



録音したメモに、「Smart Pad for 505」で作成した文書やビットマップファイルなどの絵を貼り付けることもできます。詳しくは、「Smart Label」のヘルプをご覧ください。

作成したメモをデスクトップに貼りつける

「Smart Pad for 505」と「Smart Label」ソフトウェアで作成したメモを、デスクトップに貼りつけておくことができます。
デスクトップに貼りつけられたメモを、「ラベル」と呼びます。



Smart Pad for 505で作成したメモをラベルとして貼りつけたいときは、Smart Pad for 505のツールバー内にある をクリックします。
Smart Labelでは、録音したメモは自動的にラベルとして、デスクトップに貼りつけられます。

Smart Pad for 505のラベルの内容を確認する

1 **確認したいラベルにポインターを合わせてからタッチパッドの右ボタンをクリックする。**

2 **［Smart Pad for 505］にポインターを合わせ、［Smart Padの起動］をクリックする。**
Smart Pad for 505が起動し、選んだラベルの内容を確認できます。

Smart Labelのラベルの内容を確認する

ラベルをクリックし、►をクリックする。

ラベルを削除する

確認したいラベルにポインターを合わせてからタッチパッドの右ボタンをクリックし、［ラベル削除］をクリックします。

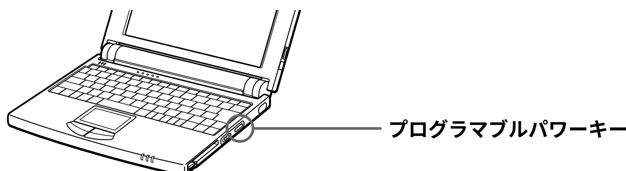


Smart Pad for 505のラベルに音声を追加したり、Smart Labelのラベルに文字や画像データを追加したりすることもできます。詳しくはヘルプをご覧ください。

好みのソフトウェアを自動的に起動する

ワンタッチで好みのソフトウェアを起動する

「PPK Setup」ソフトウェアを使うことにより、プログラマブルパワーキーを押すだけで、好みのソフトウェアやスクリプトファイルを起動できます。



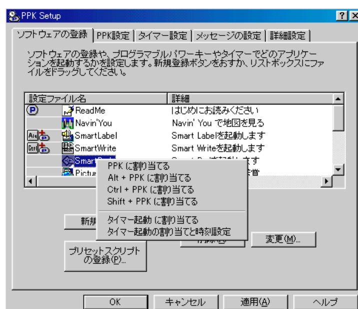
ワンタッチで好みのソフトウェアを起動できるので、すぐに起動したいソフトウェアを割り当てておくと便利です。ここでは初期設定で用意されているソフトウェアを選ぶ手順について説明します。

1 画面右下のをダブルクリックする。

「PPK Setup」が表示されます。

2 「ソフトウェアの登録」から好みのソフトウェアを選び、タッチパッドの右ボタンをクリックする。

「設定メニュー」が表示されます。



次のページにつづく

3 ［PPK**に割り当てる］をクリックする。**

手順2で選んだソフトウェアに (P) が表示されます。

4 ［OK］**をクリックする。**

これで設定は終わりです。本機右側面のプログラマブルパワーキーを押すと、設定したソフトウェアが起動します。

「アプリケーション一覧」に入っていないソフトウェアを指定したいときは

［新規登録］をクリックしてから、好みのソフトウェアを指定します。詳しくは、「PPK Setup」のヘルプをご覧ください。

ご注意

初期設定では、液晶ディスプレイパネルを閉じているときにプログラマブルパワーキーを押しても、指定したソフトウェアは起動しません。

ディスプレイパネルを閉じているときでも起動したいときは、「PPK Setup」画面の［詳細設定］タブをクリックし、「液晶パネルが閉じていてもプログラマブルパワーキーを使用する」をチェックします。

本機をかばんに入れて持ち運んでいるときなどに、誤ってプログラマブルパワーキーを押してしまい、ソフトウェアが起動してしまうこともありますので、ご注意ください。

プログラマブルパワーキーと他のキーとの組み合わせについて

プログラマブルパワーキーと他のキーを組み合わせて押すことにより、好みのソフトウェアを起動することもできます。

前ページの手順2で表示される「設定メニュー」で、組み合わせを選びます。

❑ **「PPKに割り当てる」**

本機右側面のプログラマブルパワーキーを押すだけで、好みのソフトウェアが起動します。

本機の電源が入っていないときでも、キーを押すと自動的に本機の電源が入り、好みのソフトウェアが起動します。

❑ **「Alt+PPKに割り当てる」**

本機の電源が入っているときに、Altキーを押しながらプログラマブルパワーキーを押すと、好みのソフトウェアが起動します。

❑ **「Ctrl+PPKに割り当てる」**

本機の電源が入っているときに、Ctrlキーを押しながらプログラマブルパワーキーを押すと、好みのソフトウェアが起動します。

❑ **「Shift+PPKに割り当てる」**

本機の電源が入っているときに、Shiftキーを押しながらプログラマブルパワーキーを押すと、好みのソフトウェアが起動します。

内蔵タイマーで好みのソフトウェアを起動する

内蔵タイマーを使うと、本機が①通常の動作状態のとき、②システム サスペンドモードのときに、好きな時刻に好みのソフトウェアを起動できます。

プログラマブルパワーキーにソフトウェアを割り当てるときと同様に、スクリプトファイルを好みの時刻に実行することもできます。

システム サスペンドモードについて詳しくは、「省電力動作モードについて」（119ページ）をご覧ください。

1 画面右下のをダブルクリックする。

「PPK Setup」が表示されます。

2 「ソフトウェアの登録」からタイマーで起動したいソフトウェアを選び、タッチパッドの右ボタンをクリックする。

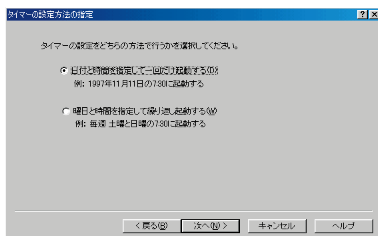
3 ［タイマー起動に割り当てる］をクリックする。

手順2で選んだソフトウェアにが表示されます。

4 ［タイマー設定］タブをクリックする。

5 ［設定］をクリックする。

「タイマーの設定方法の指定」が表示されます。



「日付と時間を指定して一回だけ起動する」を選ぶと設定した1回のみ、「曜日と時間を指定して繰り返し起動する」を選ぶと、毎週決まった時間にタイマーが起動します。

6 ［次へ>］をクリックする。

タイマー起動時刻を設定します。

手順5で「日付と時間を指定して一回だけ起動する」を選んだときは日付と時刻を、「曜日と時間を指定して繰り返し起動する」を選んだときは曜日と時刻を設定します。

次のページにつづく

7 ［次へ>］をクリックする。

8 ［完了］をクリックする。

これで設定は終わりです。タイマー設定をすると🛈（インフォメーション）ランプが点灯します。

自動的にソフトウェアを起動したあと、本機を一定時間後に省電力動作モードにすることもできます

上記の手順7で［時間による制御］をクリックし、処理を中断するまでの時間などを設定します。

ご注意

- 初期設定では、液晶ディスプレイパネルを閉じているときは、タイマーを設定していても指定したソフトウェアは起動しません。
  ディスプレイパネルを閉じているときでも起動したいときは、「PPK Setup」画面の［詳細設定］タブをクリックし、「液晶パネルが閉じていてもタイマー時刻に起動する」をチェックします。
- タイマー起動後、実際にソフトウェアが動作を始めるまでに時間がかかることがあります。どれくらい時間がかかるかを、あらかじめ確認しておくことをおすすめします。

🛈（インフォメーション）ランプについて

点灯	タイマーが設定されている
点滅	タイマー起動後、プリセットスクリプトの中で処理が正常に終了した状態。液晶ディスプレイを開閉したり、本機の電源を切ったりすると点滅が止まり、タイマーの設定内容に応じて点灯状態になったり、消灯状態になります。
消灯	タイマーが設定されていない、またはタイマー設定が無効な状態（電源オフ、システム ハイバネーションモード）

ワンタッチで電子メールを確認する

プログラマブルパワーキーの便利な使いかたの例として、ワンタッチで電子メールを確認できるよう設定してみましょう。プログラマブルパワーキーを押すだけで、メールを確認できます。

ご注意

この機能を使うまえに、以下の点を確認してください。

- インターネットに接続するための接続会社と契約は済んでいますか。
- 電子メールのアカウントを取得していますか。
- Windows 98の「ダイヤルアップネットワークの設定」は済んでいますか。
- 「ダイヤルアップネットワークの設定」で、「パスワードを保存する」にチェックはついていますか。
- 電子メール用ソフトウェアの設定は済んでいますか。

1 画面右下のをダブルクリックする。

「PPK Setup」が表示されます。

2 ［プリセットスクリプトの登録］をクリックする。

「プリセットスクリプトの設定」が表示されます。

以下の手順で設定します。

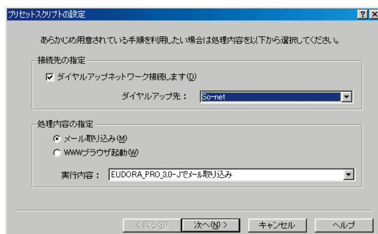
① ［ダイヤルアップネットワーク接続する］をクリックし、ダイヤルアップ先を設定する。

下矢印ボタンをクリックして、「インターネット接続ウィザード」などで設定した、ダイヤルアップ先を選びます。

② ［メール取り込み］をクリックし、実行内容を設定する。

下矢印ボタンをクリックして、使用する電子メール用ソフトウェアを選びます。

記入例



次のページにつづく

3 ［次へ>］をクリックする。

ファイル名やコメントを入力します。

ここで入力したファイル名とコメントは、「PPK Setup」画面に表示されます。

4 ［完了］をクリックする。

5 手順4で設定したファイル名を、「アプリケーションの一覧」から選び、右ボタンでクリックする。

6 「ワンタッチで好みのソフトウェアを起動する」の手順3と4（63ページ）を行う。

これで設定は終わりです。プログラマブルパワーキーを押すと、指定した電子メールソフトウェアが起動して、電子メールを自動的に取り込みます。

PPK Setupソフトウェアの制限事項について

電話回線を使用するソフトウェアを起動する場合は

通信状態やサーバーの状態によっては、正常に回線を切断できないことがあります。
プログラム実行中は実行状態を監視して、異常が発見された場合には手動で回線を切断してください。また、タイマー起動するときは、一定時間後にシステム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードへ移行するように設定しておくことをおすすめします。このように設定しておくことで、回線を正常に切断できないときでも、強制的に切断できます。
ただし、内蔵モデムリングレジュームがオンになっている場合には、システム サスペンドモードになっても回線が切断されませんのでご注意ください。

電話回線自動接続機能を持つ電子メールソフトウェアを使うときは

電子メールソフトウェアには、「Microsoft Outlook Express」などの電話回線に自動的に接続する機能を持つものもあります。
このような機能を持った電子メールソフトウェアを使用するときは、「PPK Setup」のダイヤルアップ機能（スクリプトなど）を使ってインターネットに接続するよりも、電子メールソフトウェアの機能を使ってインターネットに接続したほうが、接続不良などの異常事態が発生したときに、安定して回線を切断できる可能性が高くなります。
PPK Setupの簡易設定では、電子メールソフトウェアなどの起動前にダイヤルアップネットワークに自動的に接続します。そのため、電子メールソフトウェア側でダイヤルアップできるときは、電子メールソフトウェア側でダイヤルアップするように設定を変更するようおすすめします。

スクリプト実行中はパソコンの操作をしないでください

簡易設定によるメール取り込みには「Smart Script」で作成したスクリプトを使用しています。
これらのスクリプトを実行中に本機の操作をすると、誤動作の原因となりますのでご注意ください。

他の機器とデータをやりとりする

本機で作成したデータを他機に送ったり、他機で作成したデータを本機で受け取ったりすることができます。自宅や職場などで複数のパソコンをお使いのときは、作成したデータをやりとりすることで、本機をより活用いただけます。また、データ交換の方法を工夫することで、Macintoshなど、Windowsが動作しない機種とデータをやりとりすることもできます。

例えば...

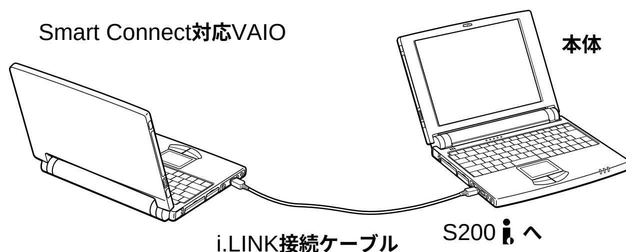
外出するときに、必要なデータだけを職場のデスクトップパソコンから本機に読み込んで、外出先でデータを修正します。職場に戻ってから、本機で修正したデータをデスクトップパソコンに戻して、データを加工したり保存したりできます。

ここでは、データ交換で使われている、以下の方法について説明します。

- Smart Connectを使ってやりとりする
- 赤外線（IrDA）を使ってやりとりする
- ネットワークを使ってやりとりする
- シリアルケーブルを使ってやりとりする

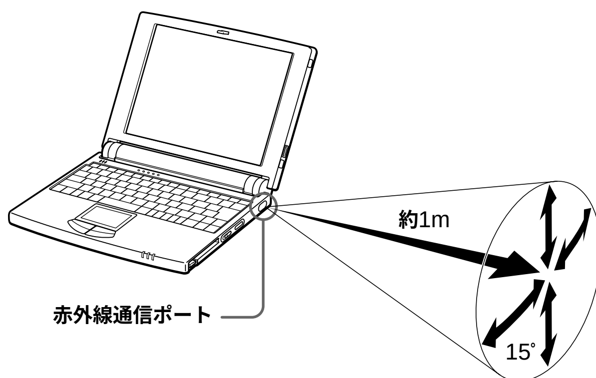
Smart Connectを使ってデータをやりとりする

Smart Connectに対応したVAIOと本機をi.LINKケーブルで接続し、お互いのファイルをコピーしたり、削除、編集などを行うことができます。
また、接続先のVAIOにつないだプリンターを使って印刷することもできます。
詳しくは、Smart Connectの取扱説明書およびオンラインマニュアルをご覧ください。

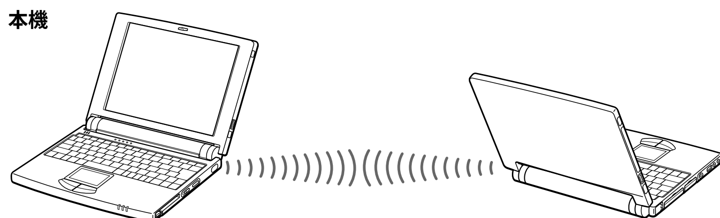


赤外線（IrDA）でデータをやりとりする

本機右側面の赤外線通信ポートを使って、IrDA対応の赤外線通信ポートの付いた他の機器とデータをやりとりできます。ケーブルをつながずにデータの送受信ができるため、ケーブルをつなぐ手間が省けるうえに、ケーブルを使ったときに比べて短時間でデータをやりとりできます。
パソコンだけでなく、赤外線通信ポートを持っている機器であればデータをやりとりできます。例えば、ソニー製のデジタルスチルカメラ「サイバーショット」にもIrDA対応の赤外線通信ポートがついているため、本機と赤外線でデータをやりとりできます。



他のノートパソコンとデータをやりとりするときは、下図のように配置してください。

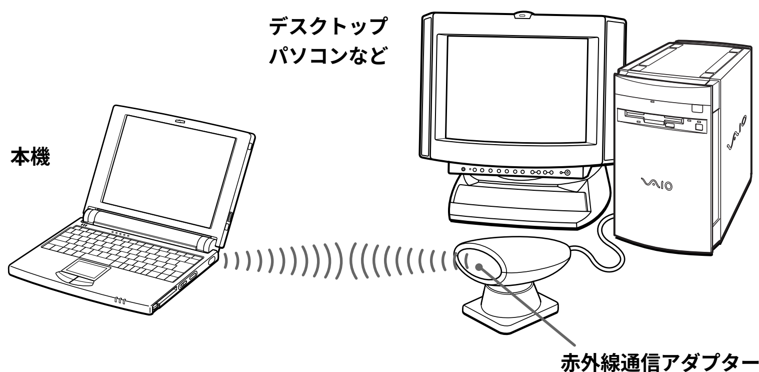


VAIOを使いこなす

次のページにつづく



赤外線通信ポートのない機器でも、別売りの赤外線通信アダプターを取り付けると、本機と赤外線でデータをやりとりできるようになるものもあります。
詳しくは、お持ちの機器の販売店にご相談ください。



赤外線でデータをやりとりするには

実際にデータをやりとりするには、本機に付属の以下のソフトウェアを使います。

- 「PictureGear」：デジタルスチルカメラなどから画像データを取り込む。
- 「Intellisync for Windows」：パソコン間で文書などのデータをやりとりする。

「PictureGear」をお使いになるときは

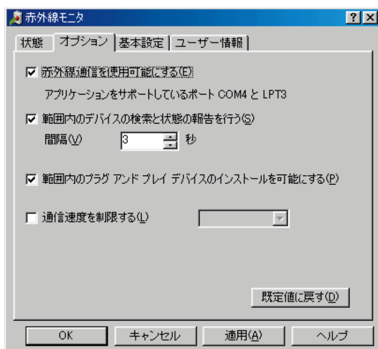
工場出荷時の設定では、赤外線でデータをやりとりすることができません。次の操作を行って、赤外線通信が使えるようにしてください。

1　［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

2　「コントロールパネル」の中の［赤外線モニタ］をダブルクリックする。

次のページにつづく

3　［オプション］タブをクリックし、「赤外線通信を使用可能にする」をチェックする。



4　［OK］をクリックする。

「Intellisync for Windows」をお使いになるときは

以下の点にご注意ください。

- 「赤外線モニタ」の設定が「赤外線通信を使用可能にする」になっていると、他のパソコンと赤外線で接続できません。このようなときは、上記の手順3で「赤外線通信を可能にする」のチェックをはずし、［OK］をクリックしてから「Intellisync for Windows」を起動してください。
- 「Intellisync for Windows」起動時に、赤外線モニターに「赤外線通信は使用不可になっています」と表示されていますが、「Intellisync for Windows」での赤外線通信は使用できますので、そのまま起動してください。
- 本機にフロッピーディスクドライブを接続していないときは、「Intellisync for Windows」の「ファイル転送」ウィンドウのツリー表示で、本機のフロッピーディスクドライブのアイコンをクリックしないでください。
  クリックすると、まれに本機のポインターが動かなくなり、以降の操作が続けられなくなる場合があります。
- 誤ってフロッピーディスクドライブのアイコンをクリックしたときは、1〜2分間程度、そのまま放置してください。
  それでもポインターが動かないときは、本機のパワースイッチを◁方向に4秒以上ずらして本機の電源を切り、再度電源を入れ直してください。

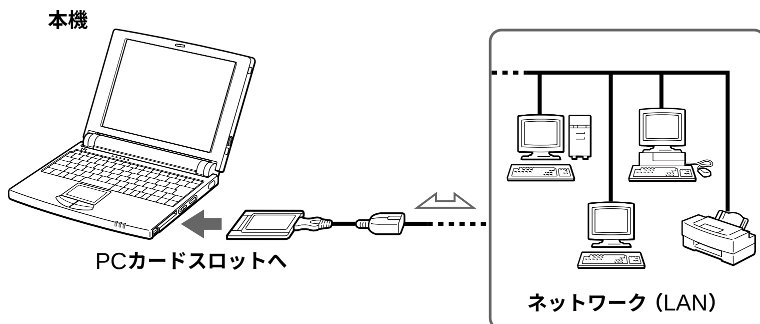
次のページにつづく

ご注意

- 「PictureGear」をお使いになるときはの手順3（72ページ）で「赤外線通信を使用可能にする」をチェックすると、一定時間ごとに通信相手を探すため、バッテリーの消耗が早まります。バッテリーの消耗を防ぐため、データのやりとりが終わったあとは、「赤外線通信を使用可能にする」のチェックをはずしておくことをおすすめします。
- タスクトレイのを右クリックして、赤外線通信の設定を変更しないでください。「PictureGear」をお使いになるときはの手順3（72ページ）で設定するか、タスクトレイの赤外線モニターアイコンをクリックし、赤外線モニターを起動して設定してください。
- 内蔵ハードディスク以外のデバイス（PCカードに接続したCD-ROM、ハードディスクなど）と赤外線通信で直接データをやりとりするときは、「PowerPanel」でACプロファイルを選ぶか、プロファイルの設定を変更してシステム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入らないようにしてください。容量の大きなファイルをうまくやりとりできないことがあります。工場出荷時の設定では、ACプロファイルを選ぶとシステム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入らないようになっています。プロファイルの変更について詳しくは、「Power Panel」のヘルプをご覧ください。
- データを正しく送受信するために、赤外線でデータをやりとりするときは以下の点にご注意ください。
  – 通信を行う機器を近づけ過ぎない。
  – 赤外線通信ポートは真正面で向き合うように配置する。
  – 赤外線通信ポート間に物を置かない。
  – 強い直射日光の当たる場所や、インバーター蛍光灯の下では赤外線通信を避ける。

ネットワーク（LAN）につないでデータをやりとりする

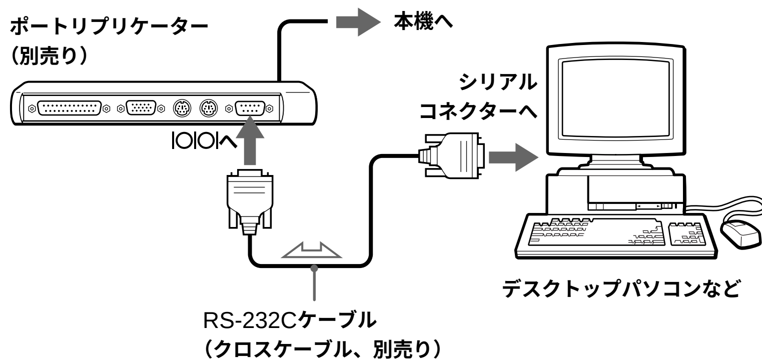
本機を職場などのネットワーク（LAN）に接続して、ネットワーク内の他の機器とデータをやりとりできます。
本機とネットワークをつなぐには、ネットワークPCカードが必要です。この場合、接続したいネットワークに合わせた種類のネットワークカードをお使いください。
ネットワークに接続するために必要な周辺機器や設定については、職場などのネットワークのシステム管理担当者にご相談ください。



シリアルケーブルを使ってデータをやりとりする

本機とデスクトップパソコンなどを接続ケーブルを使って接続して、データをやりとりできます。赤外線通信に比べて通信に多少時間はかかりますが、シリアルコネクターのある機器ならRS-232Cケーブル1本でデータをやりとりできます。

別売りのポートリプリケーター（PCGA-PR5）を使って接続します。ポートリプリケーターの使いかたについて詳しくは、「ポートリプリケーターを使って拡張する」（96ページ）をご覧ください。



ご注意

- 接続ケーブルをつなぐときは、本機と接続する機器および周辺機器の電源を切り、コンセントからACアダプターや電源コードを抜いてから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- RS-232Cケーブルは、クロスケーブルをお使いください。ストレートケーブルでつないでも、データをやりとりできません。
- RS-232Cケーブルを購入されるときは、コネクターの形状に十分ご注意ください。

音楽CD／ビデオCDを再生する

音楽CDやビデオCDを再生して楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます。（一部ソフトウェアを除きます。）
本機で音楽CDなどを再生するには、別売りのCD-ROMドライブ（PCGA-CD51）が必要です。接続について詳しくは、「CD-ROMドライブをつなぐ」（91ページ）をご覧ください。

ご注意

別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD5ではこの機能は使えません。音楽CDを聞くには、ヘッドホンや外部スピーカーなどをCD-ROMドライブにつなぎ、[スタート] ボタンをクリックして [設定] にポインターを合わせ、[コントロールパネル] をクリックします。
「コントロールパネル」が表示されたら、[マルチメディア] をダブルクリックしてから [音楽CD] タブをクリックし、「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」のチェックをはずしてください。

Digital Media Parkで音楽CD／ビデオCDを再生する

付属の「Digital Media Park」ソフトウェアを使うとMIDIファイルなどの音声・動画ファイルを再生することもできます。「Digital Media Park」を使うには以下の流れに沿って行います。

画面上の「AV再生の設定」アイコンをダブルクリックする

「Digital Media Park」を設定するための画面が表示されます。

画面の指示にしたがって操作する

画面の指示にしたがって必要な項目を設定します。

再生する

設定が終了すると、画面上部に「Digital Media Park」の中の「Media Bar」操作画面が表示されます。「Digital Media Park」の使いかたについては、「Digital Media Park」の取扱説明書をご覧ください。

いろいろなソフトウェアを使う

本機は、さまざまな用途に応じたソフトウェアを付属しています。これまで説明してきた使いかたの他にも、幅広く本機を活用していただけます。ここでは、付属のソフトウェアの中から一部をご紹介します。

❑ i.LINK対応機器から画像を取り込む

「Smart Capture」ソフトウェアを使います。

取り込んだ静止画を表示したり、動画を再生できます。また、それらの画像を電子メールで送信することもできます。

使いかたについて詳しくは、「Smart Capture」の取扱説明書をご覧ください。

❑ i.LINK対応機器から静止画を取り込む

「DVgate still」ソフトウェアを使います。

本機左側面のi.LINKコネクターにi.LINK対応のデジタルビデオカメラレコーダーなどをつなぐことにより、静止画を本機に取り込むことができます。

使いかたについて詳しくは、「DVgate still」の取扱説明書をご覧ください。

❑ 画像データを管理する

「PictureGear」ソフトウェアを使います。

デジタルスチルカメラなどから読み込んだいろいろな種類の画像データを表示し、まとめて管理できます。

使いかたについて詳しくは、「PictureGear」の取扱説明書をご覧ください。

❑ 仮想世界を散歩する

「さぱり（3Dマルチユーザーチャットワールド）」ソフトウェアを使います。

インターネット上に点在する仮想世界を、現実の世界のように散歩します。また、「さぱり」の「公園」や「コースト」などのマルチユーザー対応の仮想世界ではチャット（会話）も楽しめます。

使いかたについて詳しくは、「さぱり」のオンラインマニュアルをご覧ください。

次のページにつづく

❑ 地図を見る

「Navin' You」ソフトウェアを使います。

ハードディスクにプリインストールされている株式会社アルプス社製「プロアトラス」シリーズのほかに、市販されているナビ研規格（S規格/Ver.2.01/Ver.2.1）に準拠している地図ディスクを見たり、ルート探索などが行えます。お使いになる地図によっては機能の制限があります。

使いかたについて詳しくは、「Navin' You」の オンラインマニュアルをご覧ください。

このほかにも、以下のような使いかたができます。

- 画像を加工する
- インターネットのホームページを見る
- 辞書を使う
- ゲームを楽しむ

別冊の「付属ソフトウェア一覧」には、本機に付属のソフトウェアをまとめてご紹介しています。そちらもあわせてご覧ください。

拡張編

第2章

この章では、本機と電話回線やプリンターなどの
周辺機器との接続のしかたなどを説明します。

周辺機器を接続する

内蔵モデムを電話回線につなぐ

本機には、ファックスモデムが内蔵されています。付属のテレホンコードを使って本機と電話回線をつなぐと、インターネットなどのデータ通信をしたり、ファックスを送受信できるようになります。
内蔵モデム（V.90、K56flex対応）の通信速度は、データ受信時最大56kbps、データ送信時最大33.6kbpsです。電話回線の状況によって通信速度は変化することがあります。

1 お使いの電話回線のダイヤル方法を確認する。
電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、「カチカチ」という音がしないときはトーン式ダイヤルです。ボタンではなくダイヤルを回す電話機、またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」という音がする電話機は、パルス式ダイヤルです。

2 モデムのダイヤル方法を設定する。

① [スタート] ボタンをクリックして [設定] にポインターを合わせ、[コントロールパネル] をクリックする。

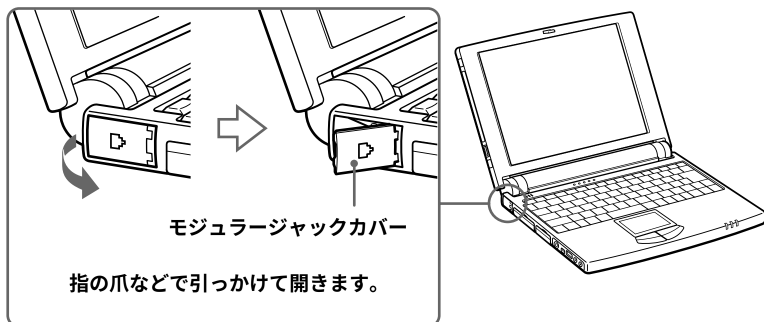
②「コントロールパネル」の中の [モデム] をダブルクリックする。

③ [ダイヤルのプロパティ] をクリックする。

④ [ダイヤル方法] からお使いの電話回線のダイヤル方法に合わせて [トーン] または [パルス] を選択する。

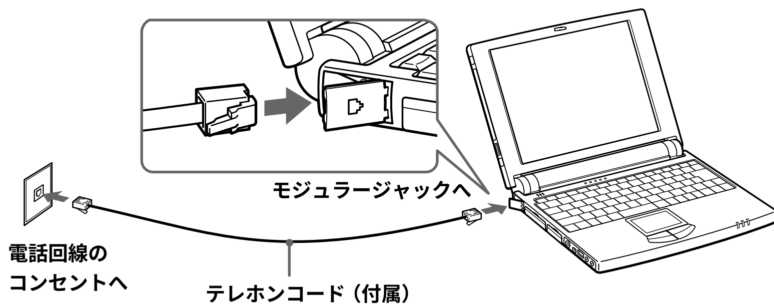
次のページにつづく

3 モジュラージャックカバーを開ける。



4 電話回線につなぐ。

モジュラージャックは本機の後ろ側から、モジュラープラグのつめがカチッとロックするまで斜めに差し込みます。



モジュラージャックが2つある電話機をお使いのときは、下図のようにつなぎます。



次のページにつづく

ご注意

接続したあとに、使用する電話、ファックス、通信などの設定を、ソフトウェアで設定する必要があります。詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

電話回線についてのご注意

- 使用可能な回線は、一般電話回線です。PBX回線には接続しないでください。
- 本機の内蔵モデムは、通信相手が応答しない場合、60秒で電話を切るように設定されています。30秒以内に電話を切るようにモデムの設定を変更することもできますが、この場合、交換機の接続遅延時間によっては接続できないことがあります。設定を変更する場合でも、30秒以上に設定するようおすすめします。
- 契約したプロバイダーがV.90またはK56flexに対応している場合、最大56kbpsで通信が可能です。ただし、電話回線の状態によって、通信速度は変化します。V.90、K56flexは自動的に選択されます。

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。ご自宅、外出先のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリー
モジュラー型	不要（そのままつなぐことができます）
3ピンジャック型	テレホンモジュラーアダプターTL-30
直付け型ローゼット[1]	モジュラーローゼットTL-32CRなど
埋め込み型[2]	テレホンモジュラージャックコンセントTL-31

1) 直付けタイプからモジュラージャックへの交換工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

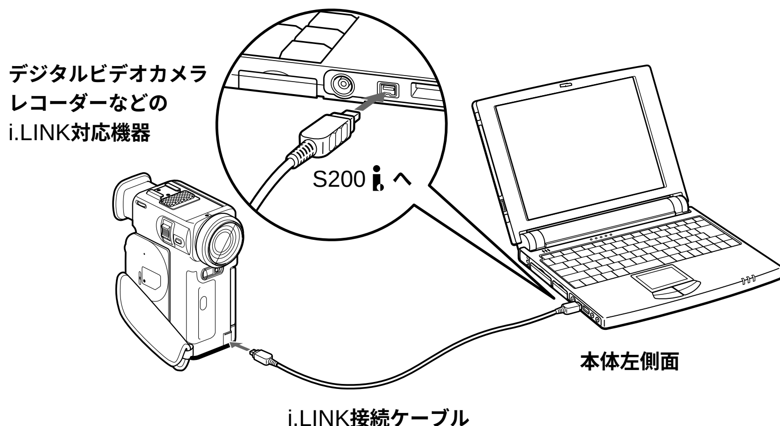
2) 電話工事担任者による取り付け工事が必要です。NTT（局番なしの116番）へご依頼ください。

ご注意

ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となる場合があります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

i.LINK対応機器をつなぐ

本機左側面のi.LINK（IEEE1394）コネクターを使ってデジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器に接続し、本機に画像をデジタルのまま取り込むことができます。





i.LINK対応機器として、DV端子を備えたソニー製のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することができます。

ご注意

- 一度に接続できるデジタルビデオカメラレコーダーは1台のみです。ソフトウェアの制限により、同時に2台のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することはできません。
- 本機のi.LINKコネクターは、i.LINK対応機器に電源を供給しません。i.LINKコネクターからの電源供給が必要な一部の機器は、正しく使用できないことがあります。
- 本機のi.LINKコネクターは最大200Mbpsのデータ転送に対応していますが、実際の転送速度は接続したi.LINK対応機器の転送速度により変わります。
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、接続するi.LINK対応機器や使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、i.LINK対応機器の取扱説明書や、本機に付属している「DVgate still」などの各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- i.LINKを使った接続や操作には、機器によって異なるものがあります。接続に必要なケーブルや、操作できる機器について詳しくは、「必要なi.LINKケーブル」（88ページ）および「本機で操作できるi.LINK対応機器」（89ページ）をご覧ください。

i.LINKとは？

i.LINKは、i.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、さまざまな操作やデータのやりとりができます。また将来、さらに多様な機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。

複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけではなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。このため、機器を接続する順序を気にする必要はありません。

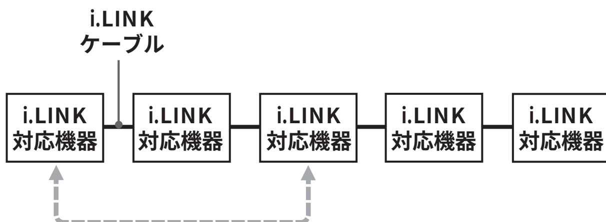
ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。



- i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
  IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。
- 著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピー・プロテクション技術が採用されています。
  この技術は、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理運用団体から許可を受けているものです。
  このDTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像／音声／データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。
  また、DTLAのコピー・プロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでデジタルの映像／音声／データのやりとりができない場合があります。

i.LINKでの接続について

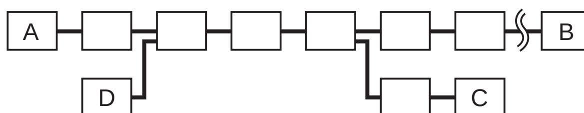
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎにして接続します。このような接続のしかたを「デイジー・チェーン」と呼びます。



2つの機器の間に他の機器がつながれていても、
操作やデータのやりとりを行うことができます。

途中から分岐してつなぐこともできます

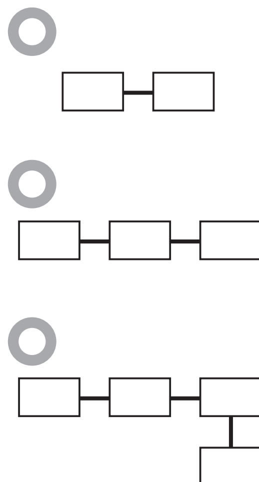
- i.LINK端子を3つ以上持つ機器の場合、途中から分岐してつなぐこともできます。
- i.LINK対応機器は、本機を含めて63台まで接続できます。ただし、一番長い経路の接続は17台までです。(i.LINKケーブルは、一番長い経路に対して連続して16本まで使用することができます。)
  ひとつの経路に対して使用したi.LINKケーブルの数を「ホップ」と呼びます。例えば、下図のA→Cの経路は
  6ホップ、A→Dの経路は3ホップとなります。

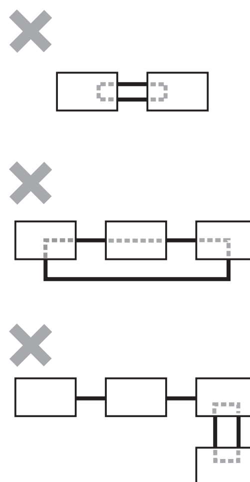


A→B、A→C、A→D、B→C、B→D、C→D、
いずれの経路も最大17台の機器を接続できます
(最大16ホップ)。

接続が輪にならないようにご注意ください

デジタル信号は、接続したすべてのi.LINKケーブルに流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないよう、接続が輪にならないようにつないでください。接続が輪（環状）になることを「ループ」と呼びます。





接続についてのご注意

- パソコンなど一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られているとデータを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINK対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINK端子の周辺に表記されています。i.LINKの最大データ転送速度は、約100／200／400Mbpsが定義されており、それぞれS100、S200、S400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器を接続した場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

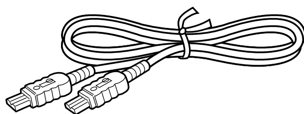
必要なi.LINKケーブル

ソニーのi.LINKケーブルをお使いください

i.LINK対応機器の接続には、本機で操作できるi.LINK対応機器に付属のi.LINKケーブルまたは、下記のソニー製i.LINKケーブル（別売り）をお使いください。（1999年4月現在）

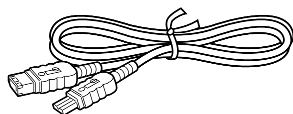
4ピン⟷4ピン

- VMC-IL4415（1.5 m）
- VMC-IL4435（3.5 m）



4ピン⟷6ピン

- VMC-IL4615（1.5 m）
- VMC-IL4635（3.5 m）



ご注意

DVケーブルはご使用になれません。

本機で操作できるi.LINK対応機器

本機では、下記のi.LINK対応機器と組み合わせて操作できます。
（1999年5月10日現在）

- i.LINKコネクターを持つソニーパーソナルコンピューター
- i.LINKコネクターを持つソニーノートブックコンピューター[1)]

  [1)] 別売りのドッキングステーションやポートリプリケーターを取り付ける必要があるモデルもあります。
  取り付け方について詳しくは、お使いのノートブックコンピューターの取扱説明書をご覧ください。

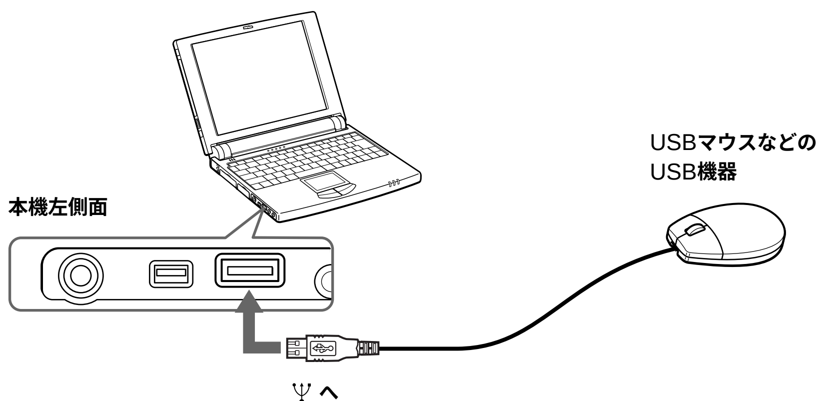
- ソニーが1999年4月末日までに発売したDV端子付きの家庭用DV機器（メディアコンバーターを含む）

ご注意

本機はDTLAコピープロテクション技術（85ページ）に対応していないため、デジタルCSチューナーやD-VHSデッキなどのDTLAコピープロテクション技術に対応した機器に接続しても操作することはできません。

USB機器をつなぐ

本機左側面のUSBコネクターを使って、USB機器を接続することができます。





別売りのソニー製USBマウスPCGA-UMS1を接続できます。
本機にはあらかじめPCGA-UMS1用のドライバーがインストールされているので、つなぐだけでご使用になれます。

ご注意

- 詳しくは接続する機器の取扱説明書をご覧ください。
- USB機器をご使用中であっても、「PowerPanel」のタイマー機能により、システム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入ります。USBマウスやUSBキーボードをお使いのときは、ACプロファイルを選ぶか、プロファイルの設定を変更してください。
  工場出荷時の設定では、ACプロファイルを選ぶと、システム サスペンドモードやシステム ハイバネーションモードに入らないようになっています。
  プロファイルの変更について詳しくは、「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。
- USB機器をご使用中に「PowerPanel」のタイマー機能により、液晶ディスプレイが暗くなりビデオスタンバイ状態になった場合は、キーボードまたはタッチパッドを操作すると通常の動作モードに復帰します。

CD-ROMドライブをつなぐ

CD-ROMはコンピューターで扱うプログラムやデータを記録した、読みとり専用の記録メディアです。ここでは、別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD51の取り付けかたについて説明します。

ご注意

- 接続のしかたは、お使いになるCD-ROMドライブによって異なります。詳しくはCD-ROMドライブの取扱説明書をご覧ください。
  PCGA-CD5をお使いの場合は、PCGA-CD5の取扱説明書に従ってドライバーをインストールしてからお使いください。
- 本機で音楽CDを聞くにはPCGA-CD51が必要です。別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD5では音楽CDを聞けません。詳しくは、76ページをご覧ください。
- CD-ROMドライブによっては本機で使用できないものもあります。詳しくは、VAIOカスタマーリンクまたは販売店にご確認ください。

CD-ROMドライブを取り付ける

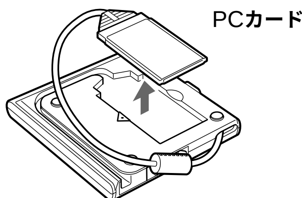
PCGA-CD51はPCカードを使って本機とやりとりします。

ご注意

プロダクト リカバリ CD-ROMで本機を再セットアップするときは、本機の電源を切ってからCD-ROMドライブを取り付け、本機の電源を入れ直してください。
それ以外のときは、本機の電源を入れたままでもCD-ROMを取り付けることができます。

1 **PCカードスロットプロテクターを取りはずす。**
詳しくは、「PCカードを取り付ける」（102ページ）の手順1をご覧ください。

2 **CD-ROMドライブの底面から、PCカードをはずす。**



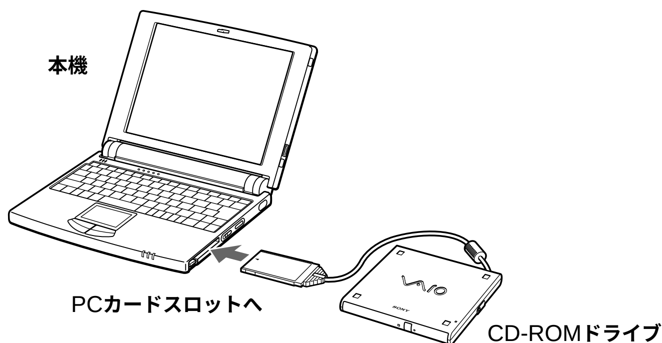
次のページにつづく

3 PC**カードを本機に取り付ける。**

PCカードのSONYという文字が書かれている面を上にして取り付けます。スロットの奥にあるコネクターに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。

取り付けかたについて詳しくは、「PCカードを取り付ける」の手順2（103ページ）をご覧ください。

「マイコンピュータ」内にCD-ROMドライブのアイコンが表示されます。



CD-ROM**ドライブを取りはずすには**

「PCカードを取り出す」（104ページ）の手順に従ってPCカードを取り出します。

ご注意

- CD-ROMドライブのトレイにディスクが入っていないことを確認してから、取りはずしてください。
- イジェクトボタンを押してもディスクが取り出せないときは、CD-ROMドライブ底面のピンをマニュアルイジェクト穴に押し込んでください。詳しくは、CD-ROMドライブPCGA-CD51の取扱説明書をご覧ください。

デジタルスチルカメラを使う

デジタルスチルカメラで撮影した画像を本機に取り込めます。ここではソニーデジタルスチルカメラと本機を赤外線で接続する方法と、他の機種をお使いのときの一般的なご注意を説明します。

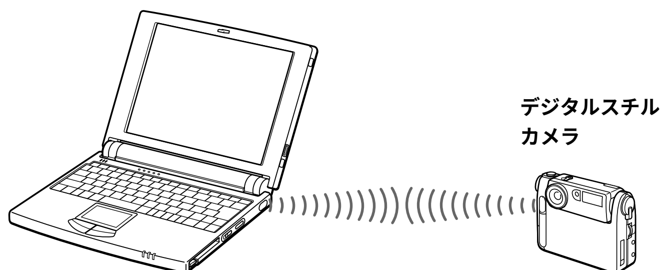
ご注意

- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、デジタルスチルカメラによって異なります。詳しくはデジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。
- 赤外線で接続するには、赤外線通信が使えるようにする必要があります。詳しくは、「赤外線（IrDA）でデータをやりとりする」（70ページ）をご覧ください。

ソニーデジタルスチルカメラと赤外線で接続する

赤外線通信機能があるソニーデジタルスチルカメラでは、ケーブル接続は必要ありません。

本機右側面の赤外線通信ポートと「デジタルスチルカメラ」が向き合うように設置します。



画像を取り込む

本機に付属している「PictureGear」ソフトウェアを使って、画像を取り込みます。

操作方法について詳しくは、「PictureGear」の取扱説明書をご覧ください。

他のデジタルスチルカメラを使う

デジタルスチルカメラから撮影した画像を取り込むには、一般的に次の方法があります。お使いの機種に合った方法で、画像を取り込んでください。

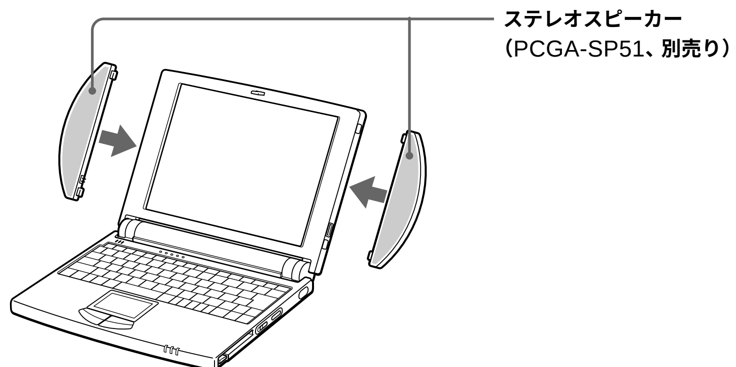
- 別売りのポートリプリケーター（PCGA-PR5）を使って、デジタルスチルカメラとSERIALコネクターをケーブルで接続する。接続するケーブルやソフトウェアは、お使いのデジタルスチルカメラ専用品をお使いください。
- 画像を記録したフロッピーディスクを本機のフロッピーディスクドライブに入れる。ソニーデジタルスチルカメラ「デジタルマビカ」などで記録したフロッピーディスクの画像は、本機に付属の「PictureGear」ソフトウェアで取り込めます。
- PCカードに画像を記録するデジタルスチルカメラのときは、メモリーカードを本機のPCカードスロットに差し込む。
  PCカードについて詳しくは、「PCカードを使う」（101ページ）をご覧ください。

ご注意

お使いの機種およびソフトウェアが本機に対応しているかどうかについては、デジタルスチルカメラおよびソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

外部スピーカーを取り付ける

別売りのステレオスピーカーPCGA-SP51を液晶ディスプレイの両側に取り付けると、ステレオ音声を楽しめます。
スピーカーの取扱説明書もあわせてご覧ください。



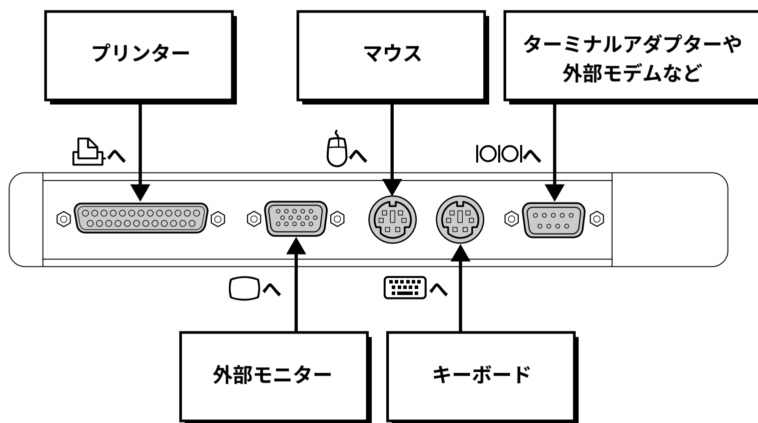
ご注意

- 別売りのステレオスピーカーPCGA-SP5は使用できません。
- 外部スピーカーを取り付けるときは、本機内蔵のスピーカーの音量を最小にしてから行ってください。
- スピーカーの音量を調節するには、Fnキーを押しながらF4キーを押します。詳しくは、「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（150ページ）をご覧ください。
- スピーカーの上にフロッピーディスクなどを置かないでください。スピーカーの磁気によりディスクに記録されているデータが破壊されることがあります。
- 外部スピーカーをつなぐと、内蔵スピーカーから音は出ません。

ポートリプリケーターを使って拡張する

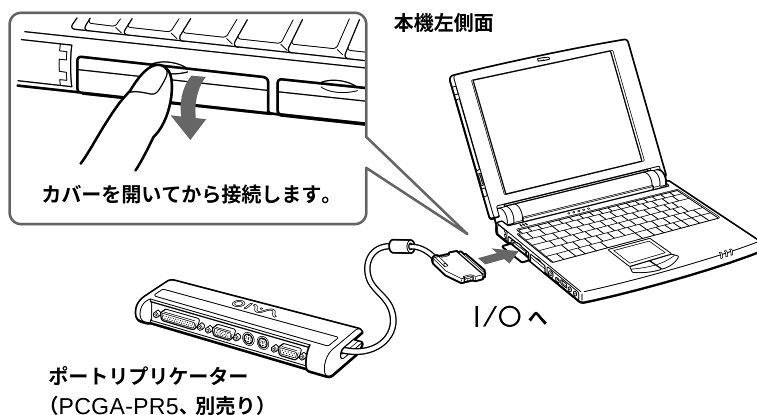
別売りのポートリプリケーターPCGA-PR5を使うと、プリンターや外部ディスプレイなどの周辺機器を本機につなぐことができます。

ポートリプリケーターを使った主な接続例



ポートリプリケーターを取り付ける

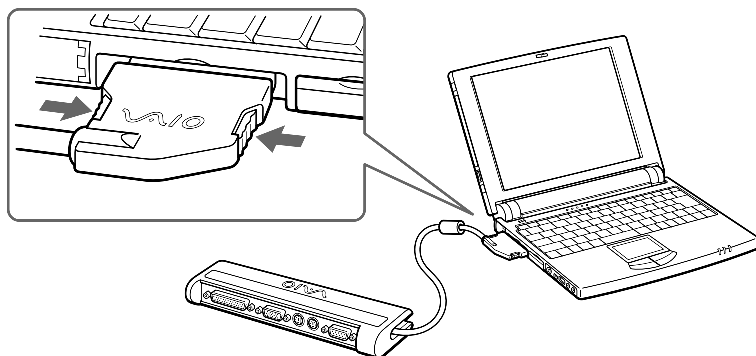
本機の電源を切ってから行ってください。



次のページにつづく

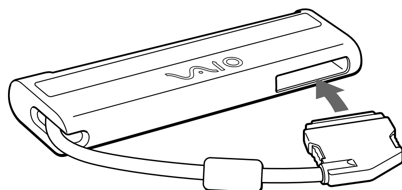
ポートリプリケーターを取りはずすには

本機の電源を切ってから、コネクターの両端をつまんでケーブルをはずします。



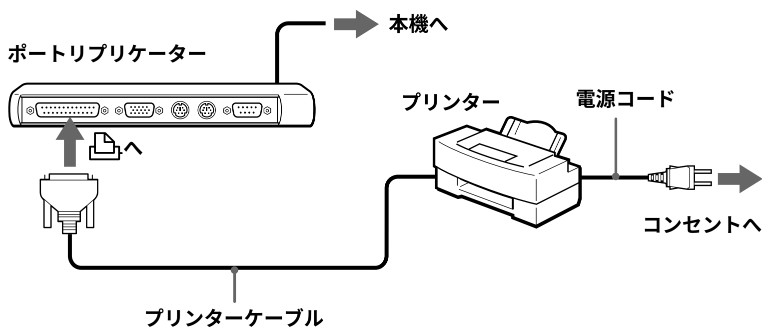
ポートリプリケーターを持ち運ぶときは

取りはずしたあとは、ケーブルをポートリプリケーター後面にはめ込むと、ケーブルが邪魔になりません。



プリンターをつなぐ

Windows 98に対応しているプリンターを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。
プリンターに付属しているプリンターケーブルを使ってつなぎます。



ご注意

- 本機とプリンターの電源を切り、コンセントからACアダプターや電源コードを抜いてから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows 98に対応していないプリンターを本機につないでも、正常に動作しないことがあります。

プリンターを使用するには

プリンターを使用するには、次の準備が必要です。

- プリンターに付属のドライバーソフトを本機にインストールする。
  詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。
- プリンターポートを設定する。
  詳しくは「プリンタポートの設定を変更する」（107ページ）をご覧ください。

外部ディスプレイをつなぐ

大きな画面で内容を確認したいときなどは、本機に外部ディスプレイを接続します。

ご注意

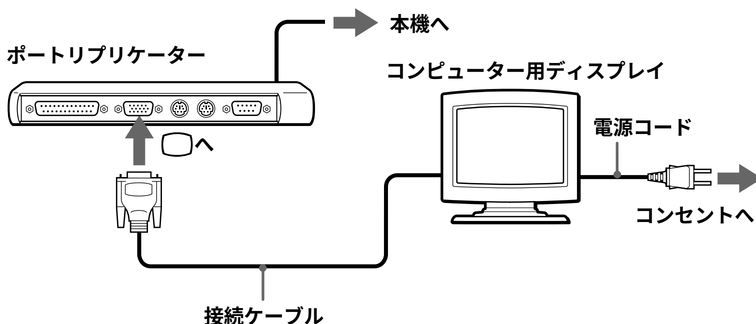
- 本機と接続する機器の電源を切り、コンセントからACアダプターや電源コードを抜いてから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- コンピューター用ディスプレイやプロジェクターの種類によっては、本機の液晶ディスプレイと同時表示できないものもあります。



本機のディスプレイと接続した外部ディスプレイの表示を切り換えられます。
詳しくは「表示するディスプレイを選ぶ」（125ページ）をご覧ください。

コンピューター用ディスプレイをつなぐ

スピーカーなどが内蔵されていない通常のディスプレイにつなぐときは、ディスプレイの他に外部スピーカーなどをつなぐことで、AV環境をよりお楽しみいただけます。
外部スピーカーの接続のしかたについては、「外部スピーカーを取り付ける」（95ページ）をご覧ください。

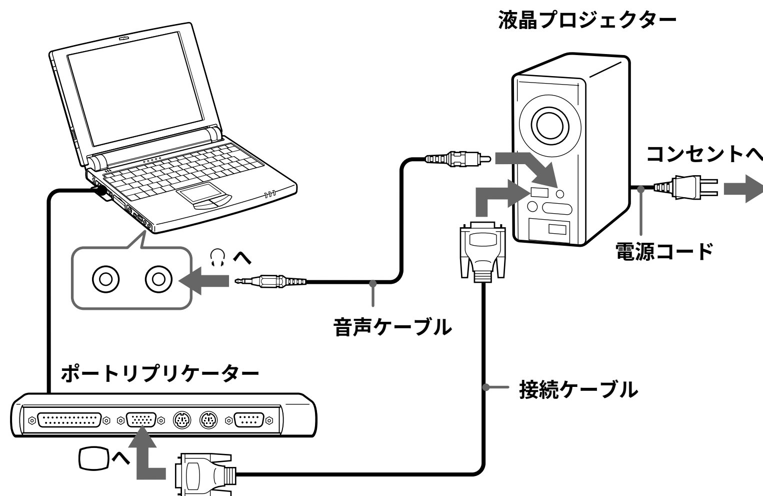


次のページにつづく

液晶プロジェクターをつなぐ

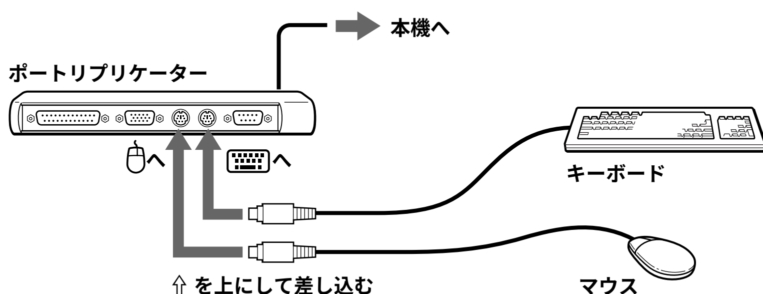
液晶プロジェクターを使うと、プレゼンテーションをするときなどに便利です。

接続のしかたは機器によって異なります。詳しくは、液晶プロジェクターの取扱説明書をご覧ください。



キーボード／マウスをつなぐ

PS/2準拠のキーボードやマウスを接続できます。



ご注意

- 接続ケーブルをつなぐときは、本機の電源を切ってから接続してください。
- 本機の電源が入っている状態でPS/2デバイス（キーボードやマウス）を接続したり、はずしたりしないでください。誤動作や故障の原因となります。
- マウスをつないでいるときは、内蔵のタッチパッドは使えません。

本体を拡張する

メモリーを増設する

別売りの専用メモリーを増設すると、データの処理速度や、複数のソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

専用メモリーの増設は、弊社の指定サービス窓口にて行ってください。
ご自分で増設されて故障が発生した場合は、保証期間中であっても有償修理となります。

PCカードを使う

本機には、PC CardタイプIとタイプIIに準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。また 、本機のPCカードスロットはCard BusおよびZV（Zoomed Video）Portにも対応しています。

PCカードとは

PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。
主なPCカードには以下のような種類があります。

メモリーカード

データをフラッシュメモリーに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込めます。

SCSIカード

MOドライブやスキャナーなどのSCSIデバイスを接続できます。

ネットワークカード

イーサネットなどのネットワークに接続できます。

次のページにつづく

TA（ターミナルアダプター）カード
ISDN回線に接続できます。

ビデオカード
ビデオ機器を接続して、動画や静止画を取り込めます。

ご注意

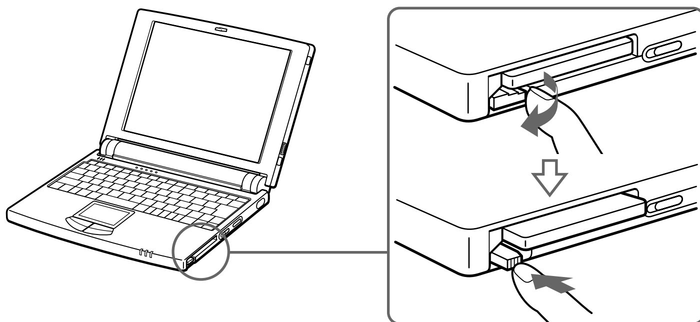
- PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。
- PCカードによっては、ドライバーを最新のものにすることによって不具合が改善される場合があります。PCカードの製造メーカーから最新のドライバーを入手してお使いください。

PCカードを取り付ける

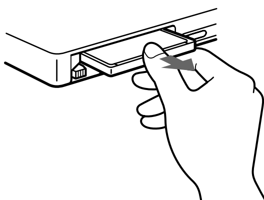
PCカードを取り付けるときに本機の電源を切る必要はありません。

1 PCカードスロットプロテクターを取り出す。
スロットを保護するために、PCカードスロットプロテクターが装着されています。PCカードを挿入する前に、プロテクターを取り出す必要があります。

① イジェクトボタンを起こしてから、ボタンを押す。
プロテクターが出ます。



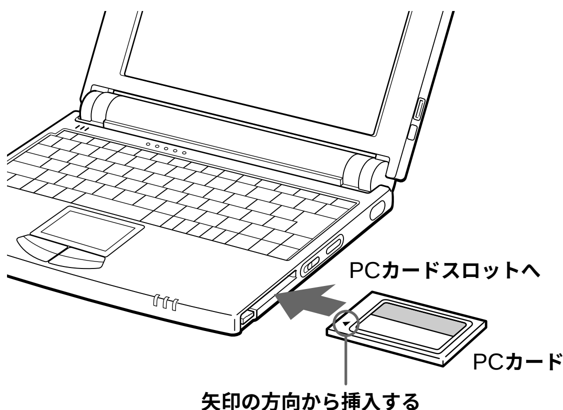
② プロテクターの端を持って、スロットから引き抜く。



次のページにつづく

2 カードをスロットに挿入する。

スロットの奥にあるコネクターに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。



取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- PCカードによっては、「Sony Notebook Setup」を起動し、使用しないデバイスを一時的に無効にする必要のある場合があります。詳しくは「デバイスを一時的に使用できないように設定する」（112ページ）をご覧ください。
- お使いのPCカードのメーカーが提供する最新のドライバーをお使いください。
- 「システムのプロパティ」の［デバイスマネージャ］タブでPCカードに「！」が付いている場合は、ドライバーを削除し、再度インストールしてください。

次のページにつづく

PCカードを取り出す

ご注意

本機の電源が入っているときにカードを取り出すときは、必ず以下の手順に従ってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。本機の電源が切れているときは、手順1〜4の操作は不要です。

1 **[スタート] ボタンをクリックして [設定] にポインターを合わせ、[コントロールパネル] をクリックする。**

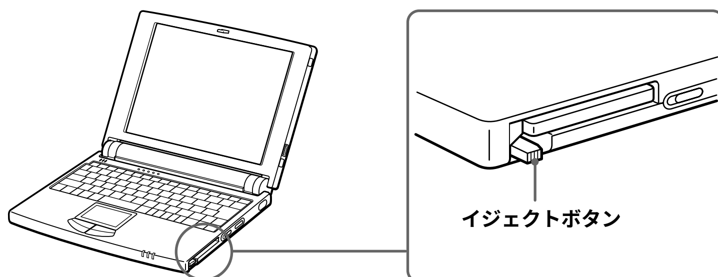
2 **[PCカード] をダブルクリックする。**

3 **リストから取り出したいPCカードをクリックし、次に [停止] を順にクリックする。**

4 **「このデバイスは安全に取りはずせます。」と表示されたら [OK] をクリックする。**

5 **PCカードスロットのイジェクトボタンを押す。**

カードがコネクターからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。



カードを引き抜いたあとは、スロットを保護するために、必ずPCカードスロットプロテクターを挿入してください。

セットアップ編

第3章

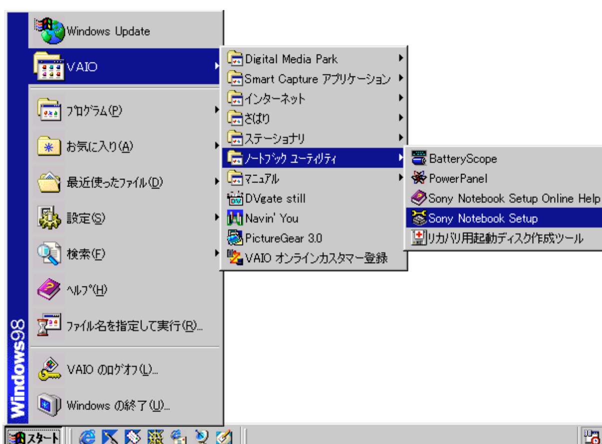
Sony Notebook SetupやPowerPanel、BatteryScopeといった付属のユーティリティソフトウェアを使ったり、Windowsの設定を変更することで、ご使用になる環境や好みに合わせた動作環境をつくれます。

本機の使用環境を設定する

本機の情報を確認する

本機の製品情報や、メモリーの容量などのシステム情報を確認することができます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。**
Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。



次のページにつづく

2 ［システム情報］タブをクリックする。

本機の製品情報やハードウェア情報を確認できます。



確認が終わったら

［OK］をクリックします。

プリンタポートの設定を変更する

ポートリプリケーター（別売り）のPRINTERコネクターにプリンターなどのパラレル機器をつなぐときは、機器にあわせてプリンタポートモードを変更できます。

1 ［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

次のページにつづく

2 [プリンタ] タブをクリックする。

プリンタポートの設定項目が表示されます。



3 接続する機器にあわせて、プリンタポートのモードを選ぶ。

– Normal：通常のプリンタポートとして使う。
– Bi-directional：双方向のプリンタポートとして使う。
– ECP：ECP対応機器をつないで使う。（工場出荷時の設定）

4 [OK] をクリックする。

設定を有効にするために本機を再起動する必要があります。表示されるメッセージに従って再起動してください。



プリンターで印刷できないときは、お使いのプリンターのモードにあわせて本機のプリンタポートのモードを設定してください。

プリンタポートのモード設定が選べないときは

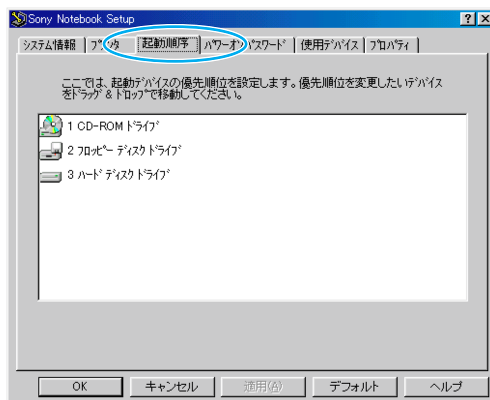
「使用デバイス」画面で「プリンタポート」がチェックされていません。チェックしてからプリンタポートの設定をしてください。
詳しくは「デバイスを一時的に使用できないように設定する」（112ページ）をご覧ください。

起動ドライブを指定する

本機を起動するときの、起動ドライブを指定できます。フロッピーディスクドライブから起動したり、CD-ROMドライブから起動したいときなどに便利です。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。**
Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

2 **［起動順序］タブをクリックする。**
起動順序が表示されます。



3 **順序を変更したいドライブを上下にドラッグする。**
リスト表示中の上にあるドライブから先に本機が起動します。

4 **［OK］をクリックする。**
次に電源をいれるときは、手順3で設定した順位の高いドライブから本機が起動します。

本機をCD-ROMドライブから起動するには
別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD51が必要です。

パスワードを登録する

パスワードを登録して、パスワードを知っているユーザーだけが本機を使えるようにできます。大切なデータを守りたいときなどに便利です。
ここで登録したパスワードは、本機を起動してSONYのロゴマークが表示されたあとに入力します。

ご注意

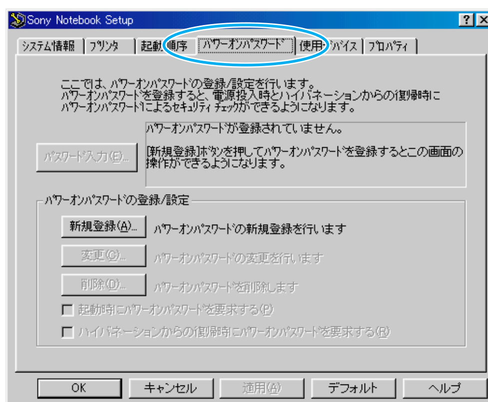
パスワードを忘れると、本機を起動することができなくなります。パスワードは必ずメモを取るなどして、忘れないようにしてください。万一パスワードを忘れてしまったときは、修理（有償）が必要となります。VAIOカスタマーリンクまでご連絡ください。

1 ［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

2 ［パワーオンパスワード］タブをクリックする。

パスワードの設定項目が表示されます。



3 ［新規登録］をクリックする。

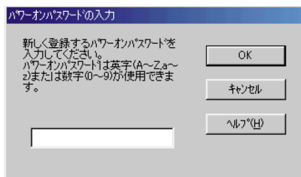
次のページにつづく

セットアップ

4 **[はい] をクリックする。**

5 **登録したいパスワードを入力してから、[OK] をクリックする。**

パスワードは半角の英数字7文字以内で入力します。1文字入力するごとに、「＊」が表示されます。



6 **手順5で入力したパスワードをもう1度入力してから、[OK] をクリックする。**

7 **[OK] をクリックする。**

入力したパスワードが登録されます。

パスワードの登録をやめるときは

手順4で、[いいえ] をクリックします。

パスワードを変更する

1 **「パスワードを登録する」の手順1と2を行う。**

2 **[パスワード入力] をクリックする。**

パスワード入力画面が表示されます。変更前のパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

3 **[変更] をクリックする。**

パスワード入力画面が表示されます。

4 **登録したいパスワードを入力してから、[OK] をクリックする。**

5 **手順4で入力したパスワードをもう1度入力してから、[OK] をクリックする。**

パスワードが変更されます。

6 **[OK] をクリックする。**

パスワードを削除する

1 「パスワードを登録する」（108ページ）**の手順**1**と**2**を行う。**

2 ［パスワード入力］をクリックする。

パスワード入力画面が表示されます。登録してあるパスワードを入力し、［OK］をクリックします。

3 ［削除］をクリックする。

確認画面が表示されます。

4 ［はい］をクリックする。

パスワードが削除されます。

削除をやめるときは、［いいえ］をクリックします。

5 ［OK］**をクリックする。**

デバイスを一時的に使用できないように設定する

別売りのハードウェアやソフトウェアを使用するときに、IRQ、DMAといったハードウェアリソースが足りなくなることがあります。この場合、本機の使用していないデバイスを使用できないように設定することで、使えるハードウェアリソースの割り当てを、一時的に変更できます。

1 ［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］**にポインターを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から**［Sony Notebook Setup］**をクリックする。**

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

セットアップ

次のページにつづく

2 **［使用デバイス］タブをクリックする。**
使用デバイスの設定項目が表示されます。



3 **使用していないデバイスのチェックボックスをクリックし、チェックをはずす。**

4 **［OK］をクリックする。**
設定を有効にするために本機を再起動する必要がある場合もあります。表示されるメッセージに従って再起動してください。

セットアップ

使用するデバイスごとに詳細な設定をする

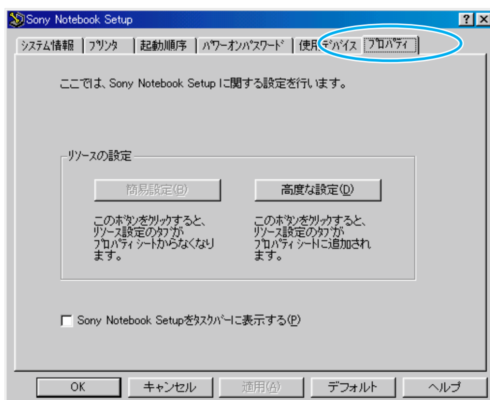
Sony Notebook Setup の［簡易設定］と［高度な設定］を切り換えることで、使用するデバイスごとにIRQやDMAといったリソースを割り当てられます。

1 **［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］から［Sony Notebook Setup］をクリックする。**
Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

次のページにつづく

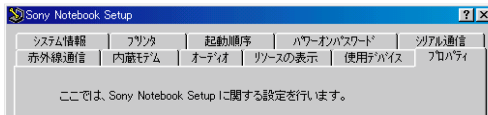
2 [プロパティ] タブをクリックする。

リソースを設定するタブの表示／非表示の切り換えボタンが表示されます。



3 [高度な設定] をクリックする。

「シリアル通信」と「内蔵モデム」、「オーディオ」、「リソースの表示」、「赤外線通信」タブが新たに表示されます。



4 リソースを設定する。

設定したいデバイスのタブをクリックして設定画面を表示させ、リソースの一覧から任意の値を選んでクリックします。

5 すべての設定が終わったら、[OK] をクリックする。

設定を有効にするために本機を再起動する必要があります。表示されるメッセージに従って再起動してください。

工場出荷時の設定に戻すには

Sony Notebook Setup の [デフォルト] をクリックします。

なお、[デフォルト] をクリックしても、以下の設定は戻りません。

- 登録したパスワード
- 「起動順序」の設定
- 「使用デバイス」の設定

バッテリーの消費電力を節約する

バッテリーで本機を使用しているときは、本機の動作速度を下げたり、ハードディスクや液晶ディスプレイを自動的に停止させたりしてバッテリーの消耗を遅らせることができます（パワーマネージメント機能）。
詳しくは「省電力動作モードについて」（119ページ）をご覧ください。

PowerPanelを起動する

本機に付属している「PowerPanel」ソフトウェアを使うことで、使用状況に合わせた電力の節約をできるようになります。
画面右下のをダブルクリックすると、画面右側にPowerPanelとBatteryScopeのアプリケーションバーが表示されます。



ポインターをボタンに合わせると、情報ボックスが表示されてボタンの機能を確認できます。

画面右下にが表示されていないときは

［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブックユーティリティ］を選び、［PowerPanel］をクリックします。
「PowerPanel」が起動し、画面右下にPowerPanelのアイコンが表示されます。

使用環境にあったプロファイルを選ぶ

本機の動作モードを設定する（プロファイルボタン）

設定したいボタンをクリックすると、クリックしたボタンのパワーマネージメント機能が実行されます。
コマンドボタンが表示されているときは、アプリケーションバーを右クリックして、ショートカットメニューから［プロファイル］を選びます。



AC

ACアダプターをつないで使用するとき、ここで設定した状態になります。ACアダプターをはずすと、バッテリーで使用していたときに選んでいた状態に戻ります。



ノーマル

消費電力を節約しつつ、できるだけ通常の動作状態を保つよう、自動的に調節します。



スタミナ

バッテリーを最大限に長時間使用できるように動作状態を自動的に調節します。
工場出荷時の設定では、バッテリー動作時には自動的に「スタミナ」が選択されます。



バッテリー動作時にいずれかのプロファイルボタンをクリックすると、そのプロファイルのパワーマネージメント機能が有効になり、以後バッテリー動作時には自動的にそのプロファイルが選択されます。

特定のデバイスの電力供給をコントロールする（コマンドボタン）

設定したいボタンをクリックすると、クリックしたボタンのパワーマネージメント機能が実行されます。
プロファイルボタンが表示されているときは、アプリケーションバーを右クリックして、ショートカットメニューから［コマンド］を選びます。



システム サスペンド

現在の本機の状態をメインメモリーに記憶させ、CPUの電源を切ります。システムをもとの状態に戻すには、いずれかのキーを押します。
翌日まで作業を中断するときなどに便利です。



システム ハイバネーション

現在のシステムの状態をハードディスクに書き込んでから、自動的に本機の電源を切ります。本機の電源を入れると、システム ハイバネーション前の状態に戻ります。
26ページの「電源を切るには」の手順を行って本機の電源を切る代わりにこの機能を使うと、次回電源を入れたときに短時間でもとの作業状態に復帰できます。2〜3日、本機を使わないときなどに便利です。



LCD/Video **スタンバイ**

本機の画面が暗くなります。いずれかのキーを押すともとの状態に戻ります。



ハードディスク スリープ

ハードディスクモーターの回転を止めます。ハードディスクへのアクセスがあるともとの状態に戻ります。



スピードコントローラー

CPUスピードを変更するダイアログボックスが表示され、CPUの動作モードを変更できます。



PC**カード**

PCカードウィンドウが表示されます。

プロファイルのパワーマネージメント設定を変更する

使用環境にあわせて、プロファイルボタンのCPUスピードや、システムサスペンドタイマーなどのパワーマネージメント設定を変更することもできます。
以下の手順に従って設定を変更してください。

1 画面右下の をクリックする。
PowerPanelのアプリケーションバーが表示されます。
画面右下にが表示されていないときは、「スタート」メニューの［VAIO］にポインターを合わせ［ノートブックユーティリティ］を選び、［PowerPanel］をクリックします。

2 設定を変更したいプロファイルボタンを右クリックし、［開く］をクリックする。
Profile Managerが起動します。

3 変更したい項目をダブルクリックする。
設定値のリストが表示されます。
現在有効な設定値がチェックされています。

4 好みの設定値をクリックする。

5 「ファイル」メニューをクリックし、［保存］クリックする。

6 「ファイル」メニューをクリックし、［終了］をクリックする。
Profile Managerが終了し、手順4で選んだ設定値が有効になります。

好みのプロファイルを追加する

工場出荷時の設定で表示されているボタンの他にも、本機にはあらかじめさまざまな設定が用意されています。これらをプロファイルボタンとして追加したり、新しくプロファイルを作成して追加することもできます。
詳しくは「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。

省電力動作モードについて

バッテリーでの使用時間を延ばすため、本機にはいくつかの省電力動作モードが用意されています。モードごとに特長がありますので、使用状況に合わせて使い分けてください。

本機の動作モードについて

❑ **通常モード（パワーランプ点灯：グリーン）**
通常の動作モードですが、液晶ディスプレイやモデムなど、特定のデバイスの電源だけを切って、消費電力を節約することもできます。
バッテリーの残量がわずかになると、自動的にシステム ハイバネーションモードになります（工場出荷時の設定）。

❑ **システム サスペンドモード（パワーランプ点滅：アンバー（赤褐色））**
現在作業中の状態を保持したまま、CPUの電源を切ります。翌日に作業を再開するときなどに便利です。バッテリーの残量がわずかになると、自動的にシステム ハイバネーションモードになります（工場出荷時の設定）。

- **システム サスペンドモードにするには**

  Fnキーを押しながらEscキーを押します。または、パワースイッチを◁の方向に一瞬ずらしたり、「PowerPanel」で設定することもできます（115ページ）。

- **通常モードに戻すには**

  キーボードのいずれかのキーを押します。

セットアップ

次のページにつづく

❑ **システム ハイバネーションモード**（**パワーランプ消灯**）

現在作業中の状態をハードディスクに保存して、本機の電源を切ります。2〜3日、本機を使わないようなときに便利です。
なお、システム ハイバネーションモードからはタイマー起動できませんのでご注意ください。

- **システム ハイバネーションモードにするには**

  Fnキーを押しながらF12キーを押します。または、「PowerPanel」ソフトウェアを使って設定します（115ページ）。

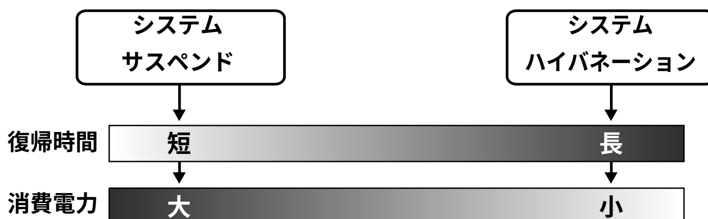
- **通常モードに戻すには**

  パワースイッチで本機の電源を入れ直します。電源を入れると、前回の作業状態に戻ります。

ご注意

- 本機は、バッテリーの残量がわずかになると、自動的にシステム ハイバネーションモードになるよう工場出荷時に設定されていますが、ご使用中のソフトウェアや接続している周辺機器によっては、Windowsからの指示で作業を一時中断することができないため、この機能が正しく働かないことがあります。
  長時間席を外されるときなどに、バッテリーが消耗した際、自動的にシステム ハイバネーションモードにならないと、本機の電源が切れ、作業中のデータが失われてしまうおそれがあります。
  バッテリーでご使用のときは、こまめにデータを保存したり、手動でシステム サスペンドモード、またはシステム ハイバネーションモードにしてください。
- システム ハイバネーションモードから通常モードに戻すときに、パワースイッチを4秒以上◁の方向にずらしたままにすると、ハードディスクに保存していたシステム ハイバネーションモードになる前の作業状態がすべて消去されて通常と同じように起動します。

復帰時間と消費電力について



バッテリーの残量を確認する

BatteryScopeを起動する

本機に付属している「BatteryScope」ソフトウェアを使うことで、本機に取り付けたバッテリーの状態を、パーセント表示または時間表示で確認できます。

画面右下のをダブルクリックすると、画面右側にBatteryScopeとPowerPanelのアプリケーションバーが表示されます。



❑ **パーセント表示**

バッテリーの残容量がパーセントで表示されます。

❑ **時間表示**

バッテリーの放電予測時間が「分単位」で表示されます。

BatteryScopeが起動されていないときは

［スタート］ボタンをクリックして［VAIO］にポインターを合わせ、［ノートブック ユーティリティ］を選び、［BatteryScope］をクリックします。
「BatteryScope」が起動し、画面右下にBatteryScopeのアイコンが表示されます。

次のページにつづく

バッテリーアイコンの見かた

BatteryScopeのアプリケーションバーに表示されるバッテリーアイコンの種類と、バッテリーの状態は以下の通りです。

バッテリーアイコン	バッテリーの状態
	放電中
	充電中
	バッテリー未装着



使用環境に合わせてアプリケーションバーの表示を変更したり、「BatteryScope」ソフトウェアの初期設定で用意されている警告表示や警告音を変更したりすることができます。
詳しくは、「BatteryScope」のヘルプをご覧ください。

バッテリー残量の見かた

画面右下のをダブルクリックするか、またはアプリケーションバーのアイコンなどの表示をクリックすると、「BatteryScope」が表示され、バッテリーの放電予測時間や完全に充電されるまでの予測時間など、バッテリーについてより詳しい情報を見ることができます。



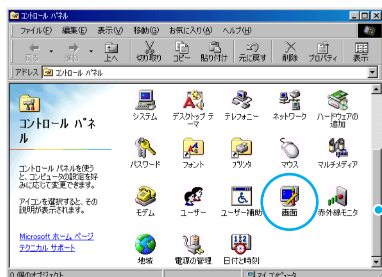
画面表示の設定を変更する

ディスプレイの設定を変更する

本機の解像度は、標準では800×600ドットHigh Color（16ビット）に設定されています。ディスプレイの解像度と色数の設定の変更をするには、以下の手順に従ってください。
Windows 98のヘルプもあわせてご覧ください。

1 ［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」が表示されます。



「画面」が表示されるまで、スクロールさせる。

2 ［画面］をダブルクリックする。

「画面のプロパティ」が表示されます。



セットアップ

次のページにつづく

3 ［設定］タブをクリックする。



4 「色」リストで色数を、「画面の領域」のスライダーで解像度をそれぞれ設定する。

5 ［OK］をクリックする。

設定が更新されます。

ご注意

設定によっては本機を再起動する必要があるものもあります。画面に表示される指示に従ってください。

色数について

- 手順4の「色」の設定と実際に表示される色数は以下の通りです。High Color（16ビット）→ 65,536色
  True Color（24ビット）→ 約1,677万色（グラフィックアクセラレーターのディザリングにより実現）
- True Color（24ビット）に設定すると、画面の描画速度が少し遅くなります。

セットアップ

次のページにつづく

表示できる解像度と色数について

○：表示できる　×：表示できない

解像度	色数	PCG-505V
1024×768ドット（XGA）	256色	×[1]
	High Color	×[1]
	True Color	×
800×600ドット（SVGA）、640×480ドット（VGA）	256色	○
	High Color	○
	True Color	○

[1] 外部にXGAで表示できるコンピューターディスプレイを接続し、本機の液晶ディスプレイの表示を切っていれば表示できます。液晶ディスプレイを表示している状態では、仮想XGAモード（画面の一部を表示するモード）になります。

表示するディスプレイを選ぶ

本機はNeoMagicビデオコントローラーを使用しています。別売りのポートリプリケーターに外部ディスプレイなどをつないでいる場合には、本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイのどちらに表示するか設定できます。

1 ［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」が表示されます。

2 ［画面］をダブルクリックする。

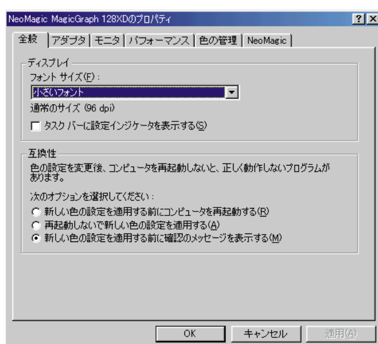
「画面のプロパティ」が表示されます。

3 ［設定］タブをクリックする。

次のページにつづく

4 **［詳細］をクリックする。**

「NeoMagic MagicGraph 128XDのプロパティ」が表示されます。



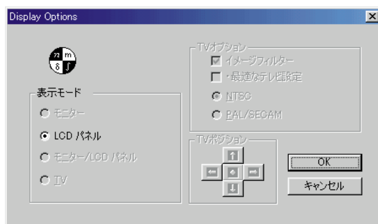
5 ［NeoMagic］**タブをクリックする。**

NeoMagicの設定項目が表示されます。



6 ［Display Options］**をクリックする。**

「Display Options」が表示されます。



次のページにつづく

7 「表示モード」から表示したいディスプレイの種類をクリックする。

設定	表示される機器
モニター	ポートリプリケーターのMONITORコネクターにつないだコンピューター用の外部ディスプレイ
LCDパネル	本機の液晶ディスプレイ
モニター／LCDパネル	ポートリプリケーターのMONITORコネクターにつないだコンピューター用外部ディスプレイと、本機の液晶ディスプレイ

8 [OK] をクリックする。

「NeoMagic MagicGraph 128XDのプロパティ」に戻り、選んだディスプレイが有効になります。

9 [OK] をクリックする。

「画面のプロパティ」に戻ります。

10 [OK] をクリックする。



Fnキーとファンクションキーを組み合わせて押しても、表示するディスプレイを切り換えられます。

詳しくは、「Fnキーとの主な組み合わせと機能」（150ページ）をご覧ください。

ご注意

- 手順7の「表示モード」で［モニター］を選んだときは、手順5の画面にあるスライダーを動かして、リフレッシュレートを調整できます。
- 外部ディスプレイがポートリプリケーターのMONITORコネクターに接続されていないときは、「モニター」、「モニター／LCDパネル」は選択できません。

アクティブデスクトップをWindows 98のデスクトップ画面からはずす

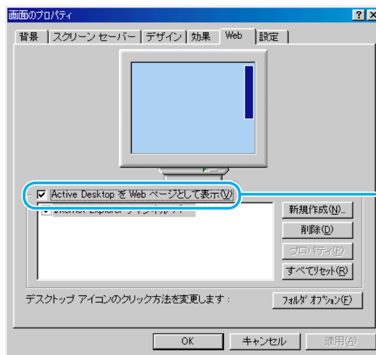
本機の初期設定では、「アクティブデスクトップ」が標準のデスクトップ画面になっています。
このアクティブデスクトップ画面を、Windows 98のデスクトップ画面に表示しないよう変更することもできます。

1 **[スタート] ボタンをクリックして [設定] にポインターを合わせ、[コントロールパネル] をクリックする。**
「コントロールパネル」が表示されます。

2 **[画面] をダブルクリックする。**
「画面のプロパティ」が表示されます。

3 **[Web] タブをクリックする。**

4 **[Active DesktopをWebページとして表示] をクリックして、チェックをはずす。**



ここをクリックして
チェックをはずします。

5 **[OK] をクリックする。**
Windows 98のデスクトップ画面からアクティブウィンドウがはずれます。

タッチパッドを便利に使う

タッチパッドの設定を変更する

本機に付属している「VersaPad」を使うことで、タッチパッドをより便利に使えます。ほとんど手やポインターの位置を動かさずに片手だけで本機を快適に操作できます。

- タッピング機能を使う
- ポインターの位置を動かさないで、垂直方向にスクロールする（スクローラー）

ご注意

スクロール機能を使うには、アプリケーション側の対応が必要です。対応していないアプリケーションでは、この機能は使えません。

タッピング機能を使う

左ボタンをクリックする操作を、タッチパッドをタップする（タッチパッド面を指で軽くたたく）動作で代用できます（工場出荷時の設定の場合）。また、ポインターを希望の位置に合わせてタッチパッドを2回続けて軽くたたき、そのままタッチパッド上で指を動かして希望の位置で離すとドラッグすることができます。

タッピング機能を無効にするには

キーボード操作時に指や手のひらがタッチパッドに触れてしまった場合、カーソル位置が移動してしまう場合がありますが、これは故障ではありません。使いにくい場合は次ページの手順に従って、タップ機能を無効にしてください。

次のページにつづく

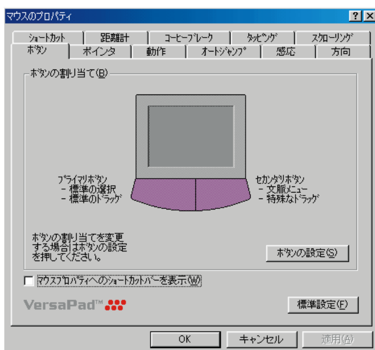
1 **［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」が表示されます。

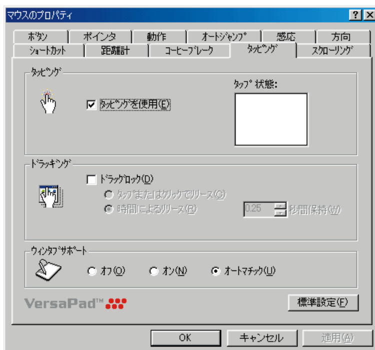


2 **［マウス］をダブルクリックする。**

「マウスのプロパティ」が表示されます。



3 **［タッピング］タブをクリックする。**



次のページにつづく

4 ［タッピングを使用］のチェックボックスをクリックし、チェックをはずす。

5 ［OK］をクリックする。

設定が有効になります。

スクローリング機能を使う

スクローリング機能を使うと、マウスポインターの位置を動かさないで、タッチパッド面の右端を上下になぞると垂直方向にスクロールすることができます。

また、スクロールの速度を変更することができます。

1 ［スタート］ボタンをクリックして［設定］にポインターを合わせ、［コントロールパネル］をクリックする。

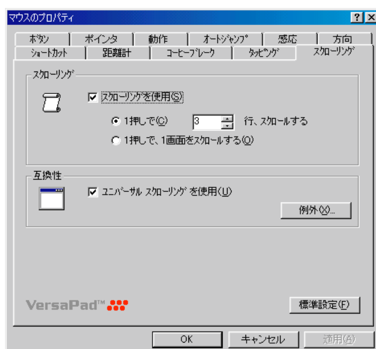
「コントロールパネル」が表示されます。

2 ［マウス］をダブルクリックする。

「マウスのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3 ［スクローリング］タブをクリックする。

スクロールの速度の設定項目が表示されます。



セットアップ

次のページにつづく

4 ［スクローリングを使用］のチェックボックスをクリックし、チェックをします。

ご注意

- スクロール機能を使うには、アプリケーション側の対応が必要です。対応していないアプリケーションでは、この機能は使えません。
- スクローリング機能を有効にしている場合は、タッチパッド右端を触れてもポインターは移動しません。
  スクローリング機能を無効にするには、上記手順4で［スクローリングを使用］のチェックをはずしてください。

5 変更したい設定項目を、好みの動作にする。

1ステップで［　］行、スクロールする	1ステップで指定した行数だけスクロールします。スクロールする行数は▲または▼をクリックして指定します。
1ステップで1画面をスクロールする	1ステップで1画面分スクロールします。

6 ［OK］をクリックする。

変更した設定が有効になります。

第4章

その他

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 本体に手やひじをつくなどして力を加えないでください。本機の液晶ディスプレイはガラスでできています。力を加えると、ガラスが割れてしまいます。
- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 炎天下や窓をしめきった自動車内など、異常な高温になる場所には置かないでください。本機が変形し、故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。

結露について

結露とは本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときなどに、本機の表面や内部に水滴がつくことで、そのままご使用になると故障の原因となります。
結露が起きたときは、電源を入れずに約1時間放置してください。

液晶ディスプレイについて

- 液晶ディスプレイの表面を濡れたもので拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイに物をのせたり、落としたりしないでください。また、手やひじをつくなどして力を加えないでください。
- 本機を戸外など寒冷な場所から室内へ持ち込むと、液晶ディスプレイに結露が生じることがあります。結露が生じたら、水滴をよく拭き取ってからご使用ください。水滴を拭き取るときは、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。液晶面が冷えているときは、水滴を拭き取っても、また結露が生じてしまいます。液晶面が室温に暖まるまでお待ちください。
- 液晶ディスプレイは非常に精密度の高い技術でつくられていますが、黒い点が現れたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。また、見る角度によってすじ状の色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、液晶ディスプレイの構造によるもので、故障ではありません。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、衝撃や振動、ほこりに弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。

次のページにつづく

ハードディスクには衝撃や振動、ほこりからデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 衝撃を与えないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

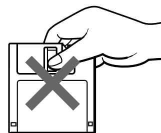
バックアップをとる

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップを取ることをおすすめします。アプリケーションプログラムはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 98のヘルプをお読みください。

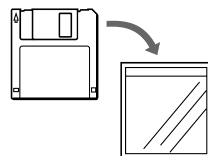
フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



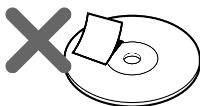
- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクはフロッピーディスクドライブから取り出して、必ずケースなどに入れて保管してください。



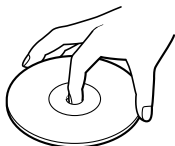
CD-ROMの取り扱いについて

CD-ROMに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- 文字の書かれていない面（再生面）に触れないようにして持ちます。



- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- CD-ROMに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、CD-ROMは必ずケースなどに入れて保管してください。

ACアダプターについて

- 本機には、付属のACアダプター（極性統一形プラグ・EIAJ規格）をご使用ください。上記以外のACアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。



極性統一形プラグ

- ACアダプターを海外旅行者用の「電子式変圧器」などに接続しないでください。発熱や故障の原因となります。

コンピューターウイルスについて

コンピューターウイルスとは、コンピューターの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピューターウイルスに侵入されると…」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピューターウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピューターにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピューターウイルスに侵入されると…

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルがかってに消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

次のページにつづく

コンピューターウイルスを侵入させないために

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書やプログラムなどのデータは必ずウィルスチェックをする。
- 本機にはコンピュータウィルス検査・ウィルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアが付属しています。
  使いかたについて詳しくは、「VirusScan」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
  また、ウィルスに関するデータファイルを常に更新することをお勧めします。
  インターネット上で、下記のURLから最新のデータファイルを入手できます。
  http://www.nai.com/japan/
- コンピューターウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がることがありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書のバックアップをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。
また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは禁じられています。ソフトウェアの使用許諾書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 98用、DOS/V用などを表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。
ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

お手入れ

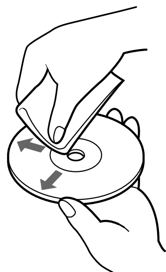
- 本機についたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- 液晶ディスプレイは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れてきたと思ったら、こまめに拭くように心がけてください。

ご注意

- 濡れたもので液晶ディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。
  化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書きに従ってください。

CD-ROMのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読みとりエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

保証書と
アフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3か月間です。ユーザー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOカスタマーリンクへご連絡ください

VAIOカスタマーリンクについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではノートブックコンピューターの修理は引取修理を行っています。
当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。当社の修理により、ハードディスク内のプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、当社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

交換部品の所有権について

修理によって交換された旧部品は、当社の所有となりますので、あらかじめご了承ください。

部品の保有期間について

当社ではノートブック コンピューターの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- **型名：**PCG-505V
- **製造番号：**
- **故障の状態：できるだけ詳しく**
- **購入年月日：**

主な仕様

本体

プロセッサー
MMX®テクノロジ Pentium®プロセッサ
300 MHz

チップセット
Mobile Triton II（430TX）PCIチップセット

2次キャッシュ
512 Kバイト（マルチバンクDRAM）

メインメモリー
64 Mバイト（SDRAM）
最大 128 Mバイトまで拡張可能

メモリースロット
専用メモリースロット

グラフィックアクセラレーター
128ビット高速グラフィックアクセラレーター
NeoMagic MagicGraph 128XD
（NM2160）

ビデオメモリー
約2 Mバイト（ビデオチップ内蔵）

液晶ディスプレイ表示モード
800 × 600ドット（約1,677万色）[1)]
640 × 480ドット（約1,677万色）[1)]
1) グラフィックアクセラレーターのディザリングにより実現

外部ディスプレイ表示モード
1,024 × 768ドット（65,536色）
800 × 600ドット（約1,677万色）
640 × 480ドット（約1,677万色）

フロッピーディスクドライブ
3.5インチ、1.44 Mバイト／1.2 Mバイト／720 Kバイト

ハードディスクドライブ
4.3 Gバイト
（1 Gバイト=10億バイトで算出）

外部接続
FDDコネクター
専用コネクター、26ピン（1）
ポートリプリケーターコネクター
専用コネクター、68ピン（1）
i.LINK（IEEE1394）コネクター
S200 4ピン（1）
S200=200Mbps
USBコネクター
USB4ピン（1）
ライン入力コネクター
ステレオミニジャック（1）
ヘッドフォン出力コネクター
ステレオミニジャック（1）
モデムコネクター
モジュラージャック（1）
赤外線ポート
IrDA 1.1、最大4 Mbps（1）
外部スピーカーコネクター
専用コネクター（2）

PCカードスロット
Type I／II ×1、ZV portおよびCardbus対応

オーディオ機能
SoundBlasterPro互換（16ビットステレオ）、モノラルスピーカー

内蔵ファックスモデム
V.90およびK56flex対応
データ受信時最大 56kbps
データ送信時最大 33.6kbps
ファックス送受信時最大 14.4kbps
ボイス機能対応、ハンズフリー電話機能対応

ポインティングデバイス
タッチパッド、ペン操作対応

電源・その他
電源
ACアダプターまたはバッテリーパック
バッテリー駆動時間
約1.5～3時間（標準タイプ）、
約3～7時間（大容量タイプ）
動作温度
5℃～35℃（温度勾配10℃／時以下）

次のページにつづく

動作湿度

20%～80%（結露のないこと）
ただし35℃における湿度は65%以下（湿球温度29℃以下）

保存温度

–20℃～60℃（温度勾配10℃／時以下）

保存湿度

10%～90%（結露のないこと）
ただし60℃における湿度は20%以下（湿球温度35℃以下）

外形寸法

約259 × 22.2 × 208 mm（幅／高さ／奥行き）

質量

約1.22 kg（標準タイプバッテリー装着時）

ACアダプター

電源

AC 100～240 V、50/60 Hz
（付属電源コードはAC 100V 用）

消費電力

最大40 W

出力電圧・電流

最大16 V、2.1 A

動作温度

5℃～35℃（温度勾配10℃／時以下）

動作湿度

20%～80%（結露のないこと）
ただし35℃における湿度は65%以下（湿球温度29℃以下）

保存温度

–20℃～60℃（温度勾配10℃／時以下）

保存湿度

10%～90%（結露のないこと）
ただし60℃における湿度は20%以下（湿球温度35℃以下）

外形寸法

約50 × 23.9 × 143 mm（幅／高さ／奥行き）

質量

約215 g

バッテリーパック

出力電圧・容量

11.1 V、1550 mAh

動作温度

5℃～35℃（温度勾配10℃／時以下）

動作湿度

20%～80%（結露のないこと）
ただし35℃における湿度は65%以下（湿球温度29℃以下）

保存温度

–20℃～60℃（温度勾配10℃／時以下）

保存湿度

10%～90%（結露のないこと）
ただし60℃における湿度は20%以下（湿球温度35℃以下）

外形寸法

約204.6 × 22 × 24.6 mm
（幅／高さ／奥行き）

質量

約162 g

付属品・別売り品

付属品

「はじめにお読みください」の「付属品を確かめる」をご覧ください。

別売り品

ACアダプター
PCGA-AC51

バッテリーチャージャー
PCGA-BC5

リチャージャブルバッテリーパック
PCGA-BP51（標準タイプ）
PCGA-BP52（大容量タイプ）

ポートリプリケーター
PCGA-PR5

外部ステレオスピーカー
PCGA-SP51

CD-ROMドライブユニット
PCGA-CD51

USBマウス
PCGA-UMS1

増設メモリーモジュール
PCGA-MM532SD（32Mバイト）
PCGA-MM564SD（64Mバイト）

キャリングケース
PCGA-CC5

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

ソフトウェアをアンインストールする／再インストールする

ハードディスクの空き容量が足りないために、新しいソフトウェアをインストールできないときは、すでにインストールされているソフトウェアをハードディスクから削除（アンインストール）できます。

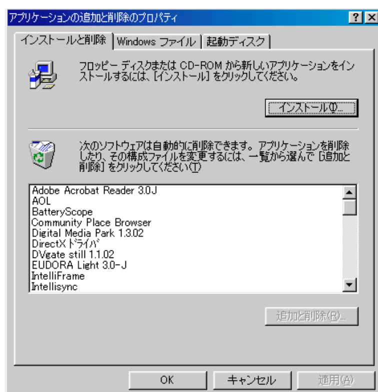
ソフトウェアをアンインストールする

1 ［スタート］ボタンをクリックし、［設定］にポインターを合わせて［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」が表示されます。

2 ［アプリケーションの追加と削除］をダブルクリックする。

「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」が表示されます。



3 ［インストールと削除］タブをクリックする。

4 削除したいソフトウェアをクリックしてから、［追加と削除］をクリックする。

アンインストーラーが起動し、「ファイル削除の確認」が表示されます。

5 「はい」をクリックする。

選んだソフトウェアがアンインストールされます。

ソフトウェアを再インストールする

アンインストールしたソフトウェアを再インストールすることもできます。

本機に付属しているソフトウェアは、付属のプロダクト リカバリ CD-ROM（以降、リカバリCDと略します）を使って再インストールします。

ソフトウェアによって再インストールのしかたが異なります

- ソニー製のソフトウェアの場合
  詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- ソニー製以外のソフトウェアの場合
  「リカバリCDで本機を再セットアップする」（144ページ）をご覧ください。

ご注意

- 付属のリカバリCDを使うには、別売りのCD-ROMドライブが必要です。
- リカバリCDを使う前に、大切なデータはバックアップをとっておいてください。

リカバリCDで本機を再セットアップする

ここでは、別売りのCD-ROMドライブで付属のプロダクト リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリCDとは

リカバリCDには、出荷時のハードディスク中のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、プリインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、リカバリCDを使ってハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すことができます。

リカバリCDを使うと、次のことができます

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクを初期化せずに、すべてのファイルを復元する。

ご注意

- 本機専用のCD-ROMドライブPCGA-CD51およびPCGA-CD5以外のCD-ROMドライブをお使いのときは、リカバリCDを使うために起動用ディスクを作成する必要があります。起動用ディスクを作成しないと、Windowsが起動できなくなった場合に、リカバリCDを使って本機を再セットアップすることができなくなります。正常に動作しているときに起動用ディスクを作成するようおすすめします。
- 付属のリカバリCDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- リカバリCDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや、作成したデータを復元することはできません。またWindows 98だけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。
  再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- ハードディスクを初期化した場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。また、ハードディスクを初期化しない場合でも、ハードディスク上のファイルが保存されることを保証するものではありません 。
  再セットアップを行う前に、大切なデータは必ずフロッピーディスクに保存するなどして、バックアップをとっておいてください。
- ハードディスクを初期化せずにすべてのファイルを復元した場合、システムが正常に動作しないことがあります。このような場合は、もう1度再セットアップを行って、ハードディスクを初期化してから、すべてのファイルを復元してください。
- リカバリCDで再セットアップしたあと、続いてWindows 98のセットアップを行う必要があります。その際、付属のMicrosoft Windows 98ファーストステップガイドの表紙に記載されている、プロダクト キーが必要になります。
  Microsoft Windows 98ファーストステップガイドは大切に保管してください。

準備する

1 **CD-ROMドライブを本機に取り付ける。**
詳しくは、「CD-ROMドライブをつなぐ」（91ページ）をご覧ください。

2 **本機をACアダプターにつなぎ、AC電源を接続する。**

再セットアップする

別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD51およびPCGA-CD5をお使いのときは、以下のように操作します。PRD-650／250およびDVD-ROMドライブPBD-D50をお使いのときは、次ページをご覧ください。

1 **付属の「プロダクト リカバリCD-ROM Vol. 1 of 2」をCD-ROMドライブに入れてから、本機の電源を入れる。**
「プロダクト リカバリCD-ROM リストアユーティリティ」画面が表示されます。

2 **「BIOSの設定値を初期化するためにコンピューターを再起動してもいいですか(Yes/No)?」と表示されたら、Yキーを押してからEnterキーを押す。**
本機が再起動します。

3 **画面の指示に従って操作し、「(Yes/No)?」が表示されたときは、Yキーを押してからEnterキーを押す。**
本機の再セットアップが始まります。
作業中にEscキーを押すと再セットアップを中断することもできますが、その場合は再セットアップをはじめからやり直す必要があります。
再セットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って本機を再起動してください。

起動ディスクを作成する

ソニー製のDVD-ROMドライブPBD-D50またはCD-ROMドライブPRD-650／250をお使いの場合には、以下の手順で起動用ディスクを作成できます。

準備する

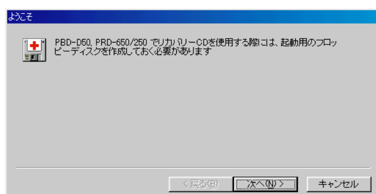
DVD-ROMまたはCD-ROMドライブを本機で使用できる状態にしておく。

- DVD-ROMまたはCD-ROMドライブを本機に接続しておく。
- フロッピーディスクドライブを本機に接続しておく。
- お使いになるドライブに付属のセットアップディスクを用意する。

1 ドライバーをハードディスクにコピーする

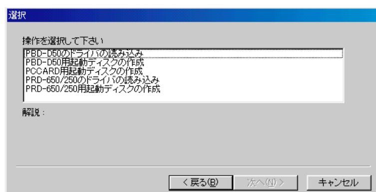
1 [スタート] ボタンをクリックし、[VAIO] にポインターを合わせ、[ノートブック ユーティリティ] を選び、[リカバリ用起動ディスク作成ツール] をクリックする。

「ようこそ」の画面が表示されます。



2 [次へ>] をクリックする。

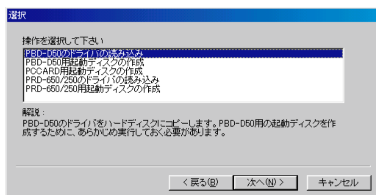
「選択」の画面が表示されます。



その他

次のページにつづく

3 リストの中から使用するドライブのドライバー読み込み操作を選び、［次へ］をクリックする。



4 各ドライブの接続キットに付属のフロッピーディスクを入れ、［次へ］をクリックする。

本機のハードディスクにドライバーがコピーされます。

［完了］をクリックすると、「リカバリ用起動ディスク作成ツール」が終了します。引き続き「2 起動用ディスクを作成する」の手順を行ってください。

2 起動用ディスクを作成する

1 前ページの「1 ドライバーをハードディスクにコピーする」の手順1と2を行う。

2 リストの中から、使用するドライブ用の起動ディスク作成操作を選び、［次へ］をクリックする。

3 新しいフロッピーディスクを入れる。

フロッピーディスクに「起動ディスク」と書いたラベルを貼ってから、フロッピーディスクドライブに入れます。

4 ［次へ］をクリックする。

フォーマットが始まります。

フォーマットが終わると、引き続いて必要なファイルのコピーが始まります。

5 「終了」の画面が表示されたら、［完了］をクリックする。

これで起動ディスクの作成は終了です。

起動ディスクを確認する

作成した起動ディスクで、DVD-ROMまたはCD-ROMドライブを使用できるかどうか確かめます。

1 **本機の電源を切る。**

2 **作成したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れてから、電源を入れる。**

3 **本機が起動したら、以下のように入力する。**

A:¥>dir q:

DVD-ROMまたはCD-ROMドライブに入れたCD-ROMの内容が表示されます。

「無効なドライブの指定です」と表示されたときは、起動ディスクを正常に作成できなかった可能性があります。前ページの「2 起動用ディスクを作成する」の手順をはじめからやり直してください。

4 **本機の電源を切る。**

本機を再セットアップするときは

起動ディスクを使って本機を再セットアップするときは、次の手順に従って操作してください。

1 **DVD-ROMまたはCD-ROMドライブを本機につなぎ、付属の「プロダクト リカバリCD-ROM Vol. 1 of 2」を入れる。**

2 **フロッピーディスクドライブを本機につなぎ、作成した起動ディスクを入れてから、本機の電源を入れる。**

3 **以下のように入力してからEnterキーを押す。**

A:¥>A:install

4 **「再セットアップする」（145ページ）の手順2を実行する。**

5 **起動用ディスクから起動したら、もう1度「A:install」と入力し、Enterキーを押す。**

「プロダクト リカバリCD-ROM リストアユーティリティ」が起動します。

6 **「再セットアップする」（145ページ）の手順3を行う。**

本機の再セットアップが始まります。

詳しくは、画面の指示に従って操作してください。

キーボードショートカット

Windowsキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例： ⊞ +F ➡ Windowsキーを押しながらFキーを押す。

組み合わせ	**機能**
⊞ +F1	Windowsのヘルプを表示します。
⊞ +Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り換えます。
⊞ +E	エクスプローラー[1]を起動します。
⊞ +F	「ファイルやフォルダ」の「検索」ウィンドウを表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ファイルやフォルダ］を選んだときと同じです。
⊞ +Ctrl+F	「ほかのコンピュータ」の「検索」ウィンドウを表示します。 ［スタート］メニューから［検索］の［ほかのコンピュータ］を選んだときと同じです。
⊞ +M	表示されているすべてのウィンドウを最小化します。
Shift+ ⊞ +M	最小化されているすべてのウィンドウを元のサイズに戻します。
⊞ +R	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。 ［スタート］メニューから［ファイル名を指定して実行…］を選んだときと同じです。

[1] コンピューターの内容（ファイルやフォルダー）をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピューターのどこに保存されているか、一目で確認できます。

Fnキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例：Fn + (Esc) ➡ Fnキーを押しながらEsc（エスケープ）キーを押す。

組み合わせ	機能
Fn+ (Esc)	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブへの電源供給を停止して、使用電力を削減します。CPUへの電源供給も停止します。（システム サスペンドモード）
Fn+ (F2)	使用電源の状況を表示します。 例） Battery AC電源で使用中 Battery バッテリー充電中
Fn+ (F3)	本機のスピーカーの音声を入／切します。
Fn+ (F4)	本機のスピーカーの音量が調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ音量設定が表示されます。このときに↑または→キーを押すと大きくなり、←または↓キーを押すと小さくなります。（64段階で調節できます）。
Fn+ (F5)	液晶ディスプレイの明るさを調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ明るさ設定が表示されます。このときに↑または→キーを押すと明るい画像になり、←または↓キーを押すと暗い画像になります。（9段階で調節できます）。
Fn+LCD/VGA (F7)	ポートリプリケーター（別売り）のMONITORコネクターに接続した外部ディスプレイと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り換えます。 液晶ディスプレイのみ→液晶ディスプレイと外部ディスプレイ同時表示→外部ディスプレイのみ→液晶ディスプレイのみ→...
Fn+ (F12)	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブだけでなく、CPUやRAMへの電源供給も停止します。使用環境はハードディスクに書き込まれるので、復帰後もそのまま作業できます。（システム ハイバネーションモード）
Fn+F	液晶ディスプレイの解像度を640×480ドットに設定しているときに、液晶ディスプレイの表示を拡大／縮小できます。
Fn+D	本機の画面が暗くなります。いずれかのキーを押すともとの状態に戻ります。

故障かな？と思ったら

VAIOカスタマーリンクにご相談になる前にもう1度チェックしてみてください。それでも具合が悪いときはVAIOカスタマーリンクまたはお買い上げ店にご相談ください。

ご注意

再起動または電源を入れ直す場合は、かならず「電源を切るには」（26ページ）の手順に従い、いったん電源を切ってください。
他の方法で本機の電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。

症状	原因／対策
電源が入らない。	• 本機とACアダプター、ACアダプターとコンセントがそれぞれしっかりつながっているか確認する。 • バッテリーが正しく装着されているか確認する。 • バッテリーが放電しきっている。バッテリーを充電し、電源を入れ直す。 • 結露している。1時間くらい待って電源を入れ直す。 • 内蔵バックアップバッテリーが消耗している。ACアダプターをつないだまま1時間以上放置してから、電源を入れ直す。 内蔵バックアップバッテリーを満充電にするには、電源が入ったあとも、約24時間ACアダプターをつないだままにしてください。なお、充電中でも本機をご使用になることができます。 上記の操作を行っても電源が入らない場合は、本機底面のリセットスイッチを針金のようなもの（太目のクリップでも代用可）で押してから、電源を入れ直してください。

次のページにつづく

症状	原因／対策
電源が切れない。	• 「「スタート」メニューから［Windowsの終了］を選んでも電源が切れないときは」（27ページ）をご覧ください。 • それでも電源が切れないときは、下記のいずれかの操作を行ってください。 ■壁紙が表示された状態のまま電源が切れないときは **1** Ctrlキーと Altキーと Deleteキーを同時に押す。「プログラムの終了」が表示されます。 **2**「応答なし」と表示されているプログラムを選択し、［終了］をクリックする。 **3** 再度「スタート」メニューの［Windowsの終了］を選ぶ。 それでも電源が切れないときは、上記手順2で［シャットダウン］をクリックすると、すべてのプログラムを終了して電源が切れます。 ■「Windowsを終了しています」または「電源を切る準備ができました」が表示されたまま電源が切れないときは Escキーを押すと電源が切れます。 • 以上の操作を行っても電源が切れないときは、パワースイッチを4秒以上⊲の方向にずらしたままにして、パワーランプが消灯するか確認してください。消灯しない場合は、ACアダプターとバッテリーを取りはずして電源を切ってください。
液晶ディスプレイに何も表示されない。	• ビデオスタンバイ状態になっている。いずれかのキーを押す。 • 外部ディスプレイに表示が切り換えられている。Fnキーを押しながら、F7キーを何回か押す。
外部ディスプレイの表示サイズ、表示位置がおかしい。	ディスプレイの調整つまみで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

次のページにつづく

症状	原因／対策
画面上のポインターが動かない。	• ⊞キーを押して［スタート］メニューを表示させ、↑キーまたは↓キーを押して［Windowsの終了］を選んでEnterキーを押し、［電源を切れる状態にする］を選んでEnterキーを押す。 • 上記の操作で電源が切れないときは、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、本機を再起動する。 • 上記の操作でも何も起こらないときは、パワースイッチを4秒以上◁の方向にずらして電源を切る。 • CD-ROMを再生しているときなどに、ポインターが動かなくなってしまった場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、CD-ROMの再生を強制的に終わらせ、本機を再起動する。
フロッピーディスクが取り出せない。	42ページをご覧ください。
電源を入れた後、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出て、ハードディスクを立ち上げられない。	フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押して、取り出す。 その後、キーボードのいずれかのキーを押す。
電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。	フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクが入っていないか確認してください。 • 起動ディスク以外のフロッピーディスクが入っていた場合は、パワースイッチを4秒以上◁の方向にずらして本機の電源を切り、フロッピーディスクを取り出してから、本機の電源を入れ直し、Windowsが起動するか確認してください。 • 上記の手順で起動しない場合や、フロッピーディスクが入っていない場合は、163ページの「BIOSの初期化」をご覧ください。 • 「BIOSの初期化」（163ページ）の操作を行っても起動しない場合は、起動ディスクで本機を起動し、必要なデータのバックアップをとってから、付属のリカバリCDで本機を再セットアップしてください。

次のページにつづく

症状	原因／対策
「マイコンピュータ」からフロッピーディスクを選んで初期化しようとしたができない。	• フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（43ページ） • フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。 •「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。
「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。	フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って保存し直す。
「書き込み禁止」というメッセージが表示された。	フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。（43ページ）
スピーカーから音が出ない。	• 本機の内蔵スピーカーが「切」になっている。Fnキーを押しながら、F3キーを押す。（150ページ） • 本機の内蔵スピーカーの音量が最小になっている。Fnキーを押しながら、F4キーを押したあと、↑または→キーを押して音量を上げる。（150ページ） • 外部スピーカーをお使いの場合は、本機とスピーカーが正しく接続されているか確認する。 • 外部スピーカーの音量が最小になっている。音量つまみで音量を上げる。詳しくは、スピーカーに付属の取扱説明書をご覧ください。 • ヘッドホンコネクターにケーブルをつないでいるときは、ケーブルをはずす。
Fnキーを押しながらF3キーを押すと「Sound Disable」と表示される。	「システムのプロパティ」画面の［デバイスマネージャ］タブをクリックしてから、サウンドデバイスを使用できるように設定する。
内蔵マイクで音声を録音すると雑音が入る。	ハードディスクのアクセス音などが録音されてしまうためで、故障ではありません。
日本語が入力できない。	「文字を入力する」（32ページ）をご覧ください。
アルファベットのかわりに数字が入力される。	Num Lkキーを押して、(Num Lock) ランプを消灯させる。

その他

症状	原因／対策
入力した文字が表示されない。	文字を入力したいアプリケーションソフトウェアのウィンドウが前面に出ていない。（画面上では薄い色のウィンドウになります。）ウィンドウのどこかをクリックするか、AltキーとTabキーを同時に押して目的のアプリケーションソフトウェアを前面に出し、使える状態にする。
指がタッチパッドの端まできてしまい、これ以上動かせない。	指をいったんタッチパッドから離し、中央に戻す。
ハードディスクから起動できない。	フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。
CD-ROMドライブから起動できない。	別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD51およびPCGA-CD5以外のCD-ROMからは、本機を起動できません。
誤ってハードディスクを初期化してしまった。	リカバリCDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリCDで本機を再セットアップする」（144ページ）をご覧ください。
画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。	CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押して再起動する。
PCカードが使えない。	Windows 98対応でないPCカードは使えないことがあります。
ゲームをしているときや、動画を再生しているときの動きがぎこちない。	PowerPanelのアプリケーションバーを右クリックして「CPUスピード変更」を選び、「Auto」のチェックをはずして、スピードコントローラーを「100%」に設定する。詳しくは、「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。
Smart Pad for 505やSmart Write for 505で絶対値モードにならない。または、「タブレットは使用できません」というメッセージが出る。	• ポートリプリケーターのMOUSEコネクターにマウスが接続されている場合は、本機の電源を切り、マウスを外して、本機の電源を入れ直してください。 • 本機専用のタッチパッドドライバー以外のドライバーがインストールされている可能性があります。付属の「プロダクト リカバリ CD-ROM Vol. 2 of 2」の¥VAIO¥Drivers¥WIN98¥TouchPadから専用のドライバーを再インストールしてください。

次のページにつづく

症状	原因／対策
Smart Labelで音声が録音できない。	録音デバイスとしてマイクが選択されていない可能性があります。 **1** タスクトレーの をダブルクリックする。 **2**［オプション］メニューから［プロパティ］を選ぶ。 **3**「音量の調整」の［録音］と「表示するコントロール」の［マイク］をチェックし、［OK］をクリックする。 **4**「マイク」の［ミュート］がチェックされていないか確認する。 チェックされているときは、チェックをはずす。
Smart Pad for 505、Smart Write for 505、Smart Labelが起動しない。	共有ライブラリーが壊れている可能性があります。「プロダクト リカバリ CD-ROM Vol. 2 of 2」を使って、Q:¥VAIO¥Applications¥Sony Shared Library ¥disk1¥Setup.exeを実行して再インストールします。
内蔵モデムからダイヤルできない。	• お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、モデムのダイヤル方法を確認する。（80ページ） • 電話回線のコンセントに直接テレホンコードを接続しているか確認する。テレホンコードが長すぎないか、電話機の子機に接続していないか確認する。（81ページ） • テレホンコードを「カチッ」と音がするまでモジュラージャックに差し込む。（81ページ） • 3分以内に3回以上同じところにダイヤルした場合はリダイヤル規制がかかり、連続してダイヤルすることができません。3分以上時間をおいてからリダイヤルしてください。 • 158ページの「モデムの設定」をご覧ください。
モデムはダイヤルしているが、接続できない。	158ページの「ダイヤルの設定」をご覧ください。
携帯電話に接続できない。COMポートの設定を変えたい。	160ページの「COMポートの設定」をご覧ください。
インターネットに接続できない。	• ディスプレイ画面上の［インターネットに接続］アイコンをダブルクリックして設定を確認する。 • インターネット接続について詳しくは、別冊の「はじめてのインターネット！」をご覧ください。

症状	原因／対策
DV機器が使用できない。または、「DV機器が接続されていないか、電源が入っていないので、動作しません。」などのメッセージが表示される。	• DV機器の電源が入っているか、またはケーブルが正しく接続されているか確認する。 • i.LINKでは、複数の機器を接続して動くように設計されていますが、機器との組み合わせによっては、動作が不安定になることがあります。接続されている機器全ての電源をいったん切り、なるべく不要な機器を取り外して、ケーブルの接続を確認した後、再度電源を入れてください。
プリンターで印刷できない。	プリンタポートのモード設定を変更する。詳しくは、「プリンタポートの設定を変更する」（107ページ）をご覧ください。
キートップが外れた。	161ページの「キートップが外れてしまったら」をご覧ください。
電源を入れると「C:¥WINDOWS>_」と表示されたまま止まり、Windowsが起動しない。	「win」と入力してEnterキーを押し、「現在MS-DOSモードで動作しています。通常モードのWindowsに戻ってWindowsアプリケーションを実行し直しますか？」と表示されたら、再度Enterキーを押します。Windowsが起動します。 Windowsを終了するときは、「電源を切るには」（26ページ）の手順に従って操作してください。次回からは、Windowsが自動的に起動します。

モデムの設定

モデムがWindowsに正しく認識されているか確認します。

1　［スタート］ボタンをクリックし、［設定］にポインターを合わせ［コントロールパネル］をクリックする。

2　［モデム］アイコンをダブルクリックする。

3　［検出結果］タブをクリックする。

4　［COM2］を選択し、［詳細情報］をクリックする。
［詳細情報...］ダイアログボックスが表示されたら、モデムは正しく認識されています。

正しく認識されていないときは

次の点を確認してください。

- COMポートのリソース（IRQなど）が他のデバイスと競合していないか確認します。
「システムのプロパティ」の［デバイスマネージャ］で、デバイスのアイコンに「！」がついているものは、他のデバイスと競合を起こしています。
- モデムの設定をいったん削除し、もう一度組み込み直します。
［システムのプロパティ］の［デバイスマネージャ］で、［モデム］の中の［Sony Internal Modem］を削除します。Windowsを再起動するとモデムが検出され、対応するドライバが自動的に組み込まれます。

ダイヤルの設定

うまく接続できないときは、以下の項目を確認してください。

ケーブルの接続を確認する

「発信音が聞こえません」や「ダイヤル先のコンピュータが応答しません」といったメッセージが表示されたときは、テレホンコードの接続を確認します。本体側のモジュラージャックと壁側のモジュラージャックの接続を確認します。
予備のテレホンコードがあれば、コードを交換して試してみます。

接続速度を遅くしてみる

電話回線の状態がよくないときには、接続速度を遅くするとうまく接続できる場合があります。

1　［スタート］ボタンをクリックし、［設定］にポインターを合わせ［コントロールパネル］をクリックする。

2　［モデム］アイコンをダブルクリックする。

3　［Sony Internal Modem］を選択し、［プロパティ］をクリックする。

4　［最高速度］に遅めの数値（標準は115200）を選ぶ。

5　少しずつ数値を小さくして試す。

次のページにつづく

ダイヤルトーンを検出しないようにする

ダイヤルトーン（受話器を上げたときの「ツー」という音）の検出に失敗してダイヤルできないときは、ダイヤルトーンを検出しないようにします。

1 **［スタート］ボタンをクリックし、［設定］にポインターを合わせ［コントロールパネル］をクリックする。**
2 **［モデム］アイコンをダブルクリックする。**
3 **［全般］タブに表示されているモデムから使用したいモデムを選択し、［プロパティ］をクリックする。**
4 **［接続］タブをクリックし、「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックをはずす。**
5 **［OK］をクリックする。**
6 **「モデムのプロパティ」の［閉じる］をクリックする。**

接続中の動作が長く続くとき

接続中の動作が長く続き、接続が完了しないときは、いったん回線を切断してからかけ直します。高い通信速度で接続する場合、まれに接続に失敗して接続確認の動作が終わらなくなることがあります。

ダイヤルアップネットワークやプロトコルの設定を確認する

「ダイヤル先のコンピュータから切断されました。接続のアイコンをダブルクリックして、やり直してみてください。」や「ダイヤル先のコンピュータは、ダイヤルアップネットワーク接続を確立できません。パスワードを確認してから、やり直してみてください。」といったメッセージが表示されたときは、プロバイダーやネットワークに接続するための設定を確認します。

設定などに問題がなかった場合は、ダイヤルアップネットワークとプロトコルを組み込み直してください。

ダイヤルアップネットワークの設定の確認

1 **［マイコンピュータ］をダブルクリックし、［ダイヤルアップネットワーク］をダブルクリックする。**
2 **接続先のアイコンを右クリックし、［プロパティ］をクリックする。**
3 **契約しているプロバイダーから提供された資料に従って設定を確認する。**
特に、次の点を重点的に確認してください。
- ［全般］タブの「電話番号」の設定（ISDN用の回線が別番号になっていることもあります）
- ［サーバーの種類］タブの設定
- ［サーバーの種類］タブの［TCP/IP設定］ボタンでの設定

その他

次のページにつづく

プロトコルの設定の確認

1　［スタート］ボタンをクリックし、［設定］にポインターを合わせ［コントロールパネル］をクリックする。

2　［ネットワーク］アイコンをダブルクリックする。

3　契約しているプロバイダーから提供された資料に従って設定を確認する。

特に、次の点を重点的に確認してください。

- ［現在のネットワークコンポーネント］に組み込まれているコンポーネント
- 各コンポーネントのプロパティの設定

COMポートの設定

本機では、標準状態でCOM1～COM4までが使われています。
新しい周辺機器（PCカードなど）を接続するとCOM5以降が割り当てられることがありますが、ソフトウェアによってはCOM5以降をサポートしていないものがあり、正しく周辺機器などを使用できない場合があります。このような場合には、割り当てられているCOMポートの設定を変更します。

COMポートの設定を変更するためには、次の（1）、（2）の方法があります。

（1）使用しないデバイスを無効にする

使用しないデバイスを無効にし、そのデバイスが使っていたCOMポートをほかの周辺機器が使用できるよう解放します。

1　Sony Notebook Setupを起動する。

2　［使用デバイス］タブをクリックし、以下のデバイスのうち使わないもののチェックを外す。

- ［シリアル通信ポート（COM1）］
- ［内蔵モデム］
- ［赤外線通信ポート］

3　本機の電源を切り、周辺機器を接続してから周辺機器と本機の電源を入れる。

空いているCOMポートが周辺機器に割り当てられます。正しく設定されているか、「システムのプロパティ」の［デバイスマネージャ］で確認してください。

次のページにつづく

(2) COM3を空ける

COM3を空け、増設する周辺機器にCOM3を割り当てます。

1 [スタート] ボタンをクリックして [VAIO] にポインターを合わせ、[ノートブック ユーティリティ] から [Sony Notebook Setup] をクリックする。

2 [プロパティ] タブをクリックし、[高度な設定] をクリックする。

3 [赤外線通信] タブをクリックする。

4 [すべての方式用] の [I/Oアドレス] を「3E8h-3EFh」以外のリソース競合がないアドレスに変更する。

5 [OK] をクリックする。

ご注意

この設定を行うと、アプリケーションによってはまれに赤外線通信が正常に動作しないことがあります。

キートップが外れてしまったら

キートップは次の4タイプに分類されます。

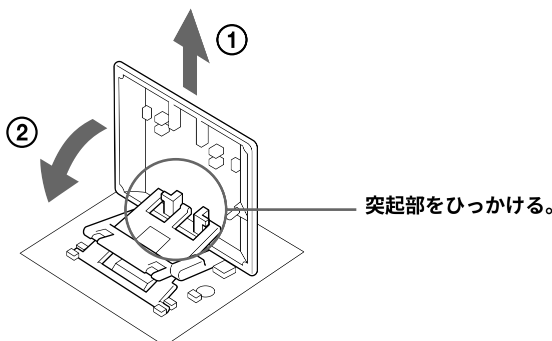
- Aタイプ： 下記タイプ以外のすべてのキー
- Bタイプ： スペース、Enter、左Shift、Caps Lockキー
- Cタイプ： 半角/全角、Windows、カタカナ、右Alt、アプリケーション、右Ctrlキー
- Dタイプ： Esc、F1〜F12、Num Lk、Prt Sc、Insert、Deleteキー

それぞれのタイプによって取り付け方が異なります。下図の指示に従ってキートップを取り付けてください。

その他

Aタイプ

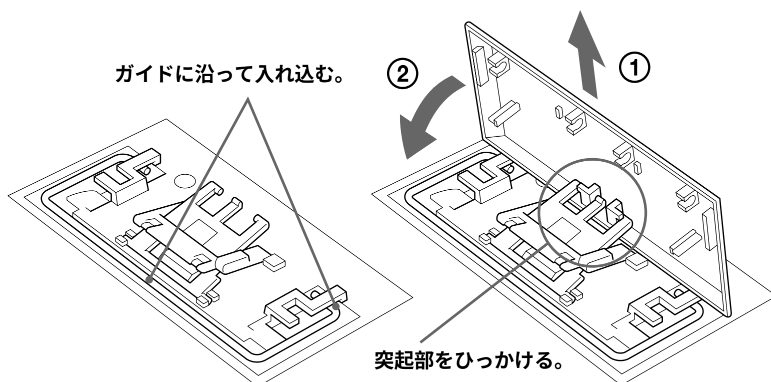
キートップを矢印方向①に差し込み、②方向に倒して押し込みます。



次のページにつづく

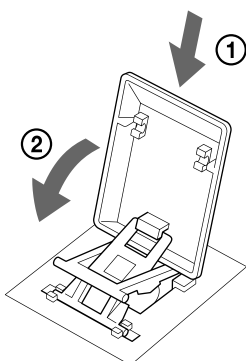
Bタイプ

キートップを矢印方向①に差し込み、②方向に倒して押し込みます。

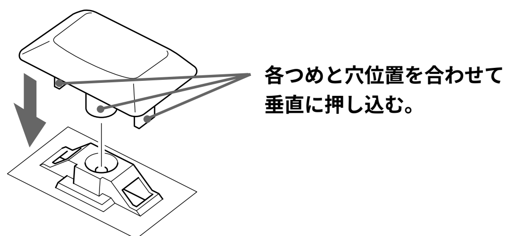


Cタイプ

キートップを矢印方向①に差し込み、②方向に倒して押し込みます。



Dタイプ



ご注意

- キートップを故意に外さないでください。故障の原因となります。
- 取り付けるときに無理に力を加えると破損の原因となります。取り扱いには十分にご注意ください。

その他

BIOSの初期化

本機の電源を切り、以下の手順でBIOSの初期化を行います。
フロッピーディスクドライブやポートリプリケーター、PCカードなどは本機から取りはずしておいてください。

1 **本機の電源を入れ直し、**SONY**のロゴマークが表示されている間に、**F2**キーを押す。**
BIOSセットアップメニューが起動します。

2 **→キーで**［Exit］**を選び、↓キーで**［Get Default Values］**を選び、**Enter**キーを押す。**
「Load default configuration now?」と表示されます。

3 ［Yes］**が選ばれていることを確認してから、**Enter**キーを押す。**
［No］が選ばれているときは←キーで［Yes］を選び、Enterキーを押します。

4 **「**Exit(Save Changes)**」を選び、**Enter**キーを押す。**
「Save configuration changes and exit now?」と表示されます。

5 ［Yes］**が選ばれていることを確認してから、**Enter**キーを押す。**
［No］が選ばれているときは←キーで［Yes］を選び、Enterキーを押します。
本機が再起動します。

索引

五十音順

ア行

アンインストール　142
インストール
　アンインストールする　142
　再インストールする　143
インターネット
　インターネットを楽しむには　48
液晶ディスプレイ　19, 25, 134, 140, 150
液晶プロジェクター
　液晶プロジェクターをつなぐ　100
音楽CD
　CDを再生する　76
オンラインマニュアル　17

カ行

外部スピーカー
　外部スピーカーをつなぐ　95
外部ディスプレイ
　外部ディスプレイをつなぐ　99
キーボード
　キーボードショートカット　149
　キーボードを使う　30
　キーボードをつなぐ　100
起動ディスクを作成する　146
起動ドライブ
　起動ドライブを指定する　109
クリック　28
　右クリック　29
結露　134
コンピューターウイルス　136

サ行

再起動　27
システム サスペンドモード　119, 150
システム ハイバネーションモード
　27, 120, 150
省電力動作モード　119
　システム サスペンドモード　119, 150
　システム ハイバネーションモード
　　27, 120, 150
シリアルコネクター　75
スピーカー
　外部スピーカーをつなぐ　95
　内蔵スピーカー　19, 150
赤外線
　赤外線通信ポート　21, 70, 93
　赤外線データ通信　70
ソフトウェア　77
　さぱり　77
　不正コピー禁止について　137
　ワードパッド　32
　BatteryScope　15, 46, 121
　Digital Media Park　14, 76
　DVgate still　77
　Intellisync for Windows　72
　Navin' You　78
　PictureGear　77, 93
　PowerPanel　15, 46, 115
　PPK Setup　62
　Smart Capture　77
　Smart Connect　14, 69
　Smart Label　60
　Smart Pad for 505　55
　Smart Write for 505　56
　Sony Notebook Setup　106
　VirusScan　137

タ行

ターミナルアダプターカード　102
タッチパッド
　クリックする　28
　スクロールする　29
　タッチパッドの設定を変更する　129
　タッチパッドを使う　28
　タッチパッドを便利に使う　129
　ドラッグする　29
　右クリックする　29
データ
　書き込み禁止にする　43
　バックアップをとる　137
　やりとりする　69
ディスプレイ
　外部ディスプレイをつなぐ　99
　ディスプレイの設定を変更する　123
　表示するディスプレイを選ぶ　125
ディスプレイパネル
　開く　25
デジタルスチルカメラ
　デジタルスチルカメラから画像を
　　取り込む　14, 93
　デジタルスチルカメラを使う　93
デジタルビデオカメラレコーダー
　デジタルビデオカメラレコーダーから
　　画像を取り込む　14

次のページにつづく

デバイス
一時的に使用できないように設定する　112
詳細な設定をする　113
電源
電源を入れる　24
電源を切る　26
電話回線
電話回線のコンセントの種類　83
電話回線をつなぐ　80
トーン式ダイヤル　80
ドラッグ　29

ナ行

内蔵モデム
内蔵モデムを電話回線につなぐ　80
日本語入力　32
ネットワーク
ネットワークカード　74，101
ネットワークにつなぐ　74

ハ行

ハードウェアリソース　112
ハードディスク
取り扱いについて　134
パスワード
削除する　112
登録する　110
変更する　111
バックアップをとる　135，137
バッテリー
残量を確認する　121
充電する　47
消費電力を節約する　115
取り付ける　46
取りはずす　47
ランプ　45
パルス式ダイヤル　80
パワーマネージメント機能　115
ビデオCD　76
ビデオカード　102
プリンター
プリンターポート　98
プリンタポートの設定を変更する　107
プリンターをつなぐ　98
プロダクト リカバリ CD　144
フロッピーディスク
入れる　42
使用できるフロッピーディスク　43
初期化する　42
データを書き込み禁止にする　43
取り扱いについて　135
取り出す　42
フロッピーディスクドライブ
取り付ける　40
取りはずす　41
ポートリプリケーター　75，96
ポインター　28
本機の情報を確認する　106

マ行

マイク　19
マウス
マウスをつなぐ　100
右ボタン　28，29
メモリーカード　101
文字入力　32
モジュラージャック　81
モデム　80，158

ラ行

リカバリCD
本機を再セットアップする　145

ワ行

ワードパッド　32

次のページにつづく

アルファベット順

A

ACアダプター　24
AC電源　24

B

BatteryScope　15，46，121

C

CD-ROM
　お手入れ　138
　取り扱いについて　136
CD-ROMドライブ
　取り付ける　91
　取りはずす　92
CPU　140

D

Digital Media Park　14，76
DVgate still　77

I

i.LINK　84
Intellisync for Windows　72
IrDA　70
ISDN　7，51

L

LAN　74
LCD　127

M

MS-IME98　33

N

Navin' You　78

P

PBX　7
PCカード
　PCカードとは　101
　PCカードを使う　101
　PCカードを取り出す　104
　PCカードを取り付ける　102
PHS　52
PictureGear　77，93
PowerPanel　15，46，115
PPK Setup　62
PS/2　100

R

RS-232Cケーブル　75

S

SCSIカード　101
Smart Capture　77
Smart Connect　14，69
Smart Label　60
Smart Pad for 505　55
Smart Write for 505　56
Sony Notebook Setup　106

T

TAカード　102

U

USB　90

V

VirusScan　137

W

Windows 98　25



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象商品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっております。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

Sony on line　http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

使い方のご相談、技術的なお問い合わせは

VAIOカスタマーリンクへ

● 0466-30-3000

カスタマー登録、一般的なお問い合わせは

VAIOカスタマー専用デスクへ

● 03-3584-6651

VAIOホームページ

VAIOを楽しく使っていただくための情報をご案内します。

● http://vaio.sony.co.jp/

VAIOカスタマーリンク ホームページ

VAIOの最新サポート情報をご案内します。

● http://vcl.vaio.sony.co.jp/

お電話の前に、必ず付属の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。